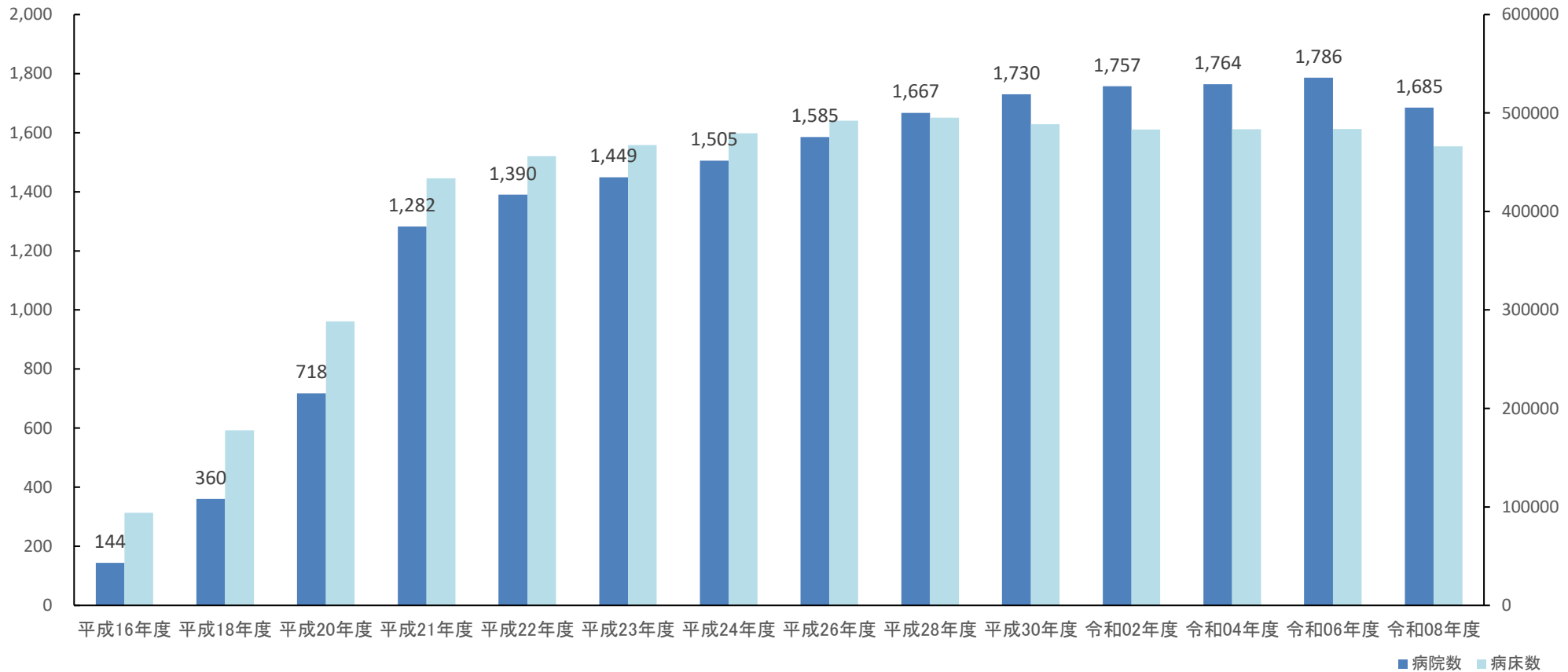


# DPC対象病院数

中医協 総 - 7 参考 1  
8 . 4 . 8

- DPC対象病院は、前回改定時と比較し、12病院が参加、109病院が退出（※1）し、令和8年6月1日時点で、1,685病院となる見込み（※2）。
- DPC準備病院は、令和8年度に24病院が新たに参加し、令和8年度6月1日時点で、242病院となった（※2）。



※1 再編により、医療機関数としては、退出した109病院の他に4病院が減。

※2 いずれも集計時点（令和8年4月1日）における、令和8年6月時点の見込み値であり、今後の医療機関の再編等により変動しうる。

# DPC/PDPSの見直し（全体概要）

## 基礎係数の見直し

- 基本的な考え方については従前の設定方法を維持し、医療機関群を設定する。
- DPC標準病院群のうち、**救急車等による搬送により入院した患者数等に係る一定の要件を満たす医療機関については、それ以外の医療機関と基礎係数の評価を区別**する。

## 機能評価係数Ⅱの見直し

- 複雑性係数について、入院初期の医療資源投入の観点から見た患者構成を評価するよう、評価手法について必要な見直しを行う。
- 地域医療係数の定量評価指数について、**DPC標準病院群においては、新たにがん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び周産期**の4領域にも着目した評価に見直す。
- 地域医療係数の体制評価指数について、「**認定ドナーコーディネーターの院内配置**」及び「**地域の需要変動への応答性**」に係る項目を新設する。

## 診断群分類点数表の見直し

- 多くの診断群分類において、平均在院日数が在院日数の中央値を上回っている実態を踏まえ、点数設定方式A、B及びCにおける標準化の進んだ診断群分類を中心に、**一定の変動率の上限を設けつつ、入院期間Ⅱを平均在院日数から在院日数の中央値へ見直した上で**、包括点数の設定を行う。
- 医療資源を最も投入した傷病名として新型コロナウイルス感染症が選択された患者について出来高算定とする取扱いを見直すとともに、診断群分類の設定等、必要な見直しを行う。

## 算定ルールの見直し

- DPC算定対象となる病棟等（以下「DPC算定病棟等」という。）から、DPC算定対象とならない病棟へ転棟した後に、**同一傷病等により改めてDPC算定病棟等に再転棟する場合について、転棟後の期間を問わず、原則として一連の入院**として扱うこととする。

## 医療機関別係数の見直し

### 基礎係数

- 基本的な考え方については従前の設定方法を維持し、医療機関群（大学病院本院群、DPC特定病院群及びDPC標準病院群）の設定については、DPC標準病院群のうち、一定要件を満たす医療機関（「DPC標準病院群1」）については、それ以外の医療機関（「DPC標準病院群2」）と基礎係数の評価を区別する。

医療機関群	基礎係数の評価区分	施設数	基礎係数
DPC標準病院群	DPC標準病院群1	1,142	1.0583
	DPC標準病院群2	290	1.0283
大学病院本院群		82	1.1245
DPC特定病院群		172	1.0769

### 機能評価係数 I

- 現行の評価手法を維持し、医科点数表の改定に応じて機能評価係数 I に反映する。
  - 各項目の評価の見直しに伴う対応

### 機能評価係数 II ・ 救急補正係数

- 複雑性係数について、入院初期の医療資源投入の観点から見た患者構成を評価するよう、評価手法について必要な見直しを行う。
- 地域医療係数のうち定量評価指数について、**DPC標準病院群においては、新たにがん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び周産期**の4領域にも着目した評価に見直す。
- 地域医療係数のうち体制評価指数について、「**認定ドナーコーディネーターの院内配置**」及び「**地域の需要変動への応答性**」に係る項目を新設する。

### 激変緩和係数

- 現行の設定方法を維持し、診療報酬改定がある年度については改定に伴う変動に関して、推計診療報酬変動率（出来高部分も含む）が2%を超えて変動しないよう激変緩和係数を設定する（入院料の増点等による影響は除く。）。

# 基礎係数の見直し

## 基礎係数の見直し

- 基本的な考え方については従前の設定方法を維持し、医療機関群（大学病院本院群、DPC特定病院群及びDPC標準病院群）の設定については、DPC標準病院群のうち、一定要件を満たす医療機関（「DPC標準病院群1」）については、それ以外の医療機関（「DPC標準病院群2」）と基礎係数の評価を区別する。

### DPC標準病院群1の要件（※1※2）

- ① 救急車等による入院数が年間700人以上
- ② 救急車等による入院数が年間200人以上 かつ 全身麻酔による手術件数が年間500件以上
- ③ 救急車等による入院数が年間400人以上 かつ 救急車等による入院数が二次医療圏で最大  
(人口20万人以下の二次医療圏に限る)
- ④ 救急車等による入院数が二次医療圏で最大  
(離島のみで構成されている二次医療圏に限る)

※1 令和6年10月～令和7年9月DPCデータにより判定を行う。

※2 令和10年度診療報酬改定以降は急性期病院A一般入院料又は急性期病院B一般入院料の届出を行う医療機関とすることを念頭に、データの収集を行う。

### 基礎係数

大学病院本院群	DPC特定病院群	DPC標準病院群	
		DPC標準病院群1	DPC標準病院群2

### 機能評価係数II

大学病院本院群	DPC特定病院群	DPC標準病院群※3
---------	----------	------------

※3 地域医療係数については、DPC標準病院群1とDPC標準病院群2について、それぞれ評価を行う。

# 機能評価係数Ⅱの見直し①

## 複雑性係数の見直し

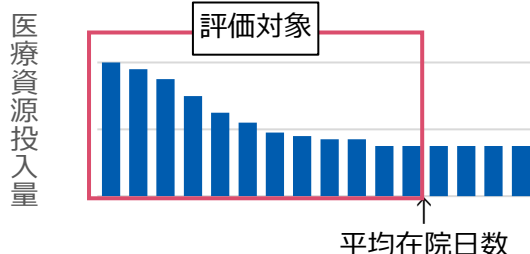
- 複雑性係数について1入院当たり医療資源投入の観点から見た患者構成への評価から、入院初期の医療資源投入の観点から見た患者構成への評価に見直す。

### 現行

【複雑性指数】

〔**包括範囲出来高点数（一入院当たり）**〕を、包括対象の診断群分類ごとに全病院の平均包括範囲出来高点数に置換えた点数〕 / 〔全病院の平均一入院あたり包括点数〕

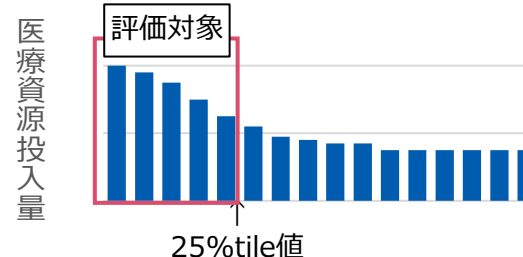
見直しのイメージ



### 改定後

【複雑性指数】

〔**在院日数の25%tile値までの平均包括範囲出来高点数**を、全DPC/PDPS対象病院における当該値に置き換えた点数の平均〕 / 〔全DPC/PDPS対象病院における全診断群分類の25%tile値までの平均包括範囲出来高点数の平均〕



## 地域医療係数（定量評価指数）の見直し

- 地域医療係数のうち定量評価指数について、地域医療係数のうち定量評価指数について、DPC標準病院群においては、新たにがん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び周産期の4領域にも着目した評価に見直す。

### 現行

〔当該医療機関の所属地域における担当患者数〕 / 〔当該医療機関の所属地域における発生患者数〕 を評価

※ 1)小児と2)それ以外をそれぞれ評価（重み付けは等分）

見直しのイメージ（DPC標準病院群に限る）

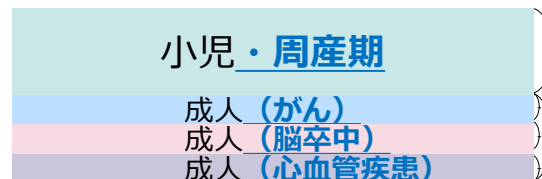


### 改定後

〔当該医療機関の所属地域における担当患者数〕 / 〔当該医療機関の所属地域における発生患者数〕 を評価

※ 1 DPC標準病院群にあつては、1)小児及び周産期と2)それ以外をそれぞれ評価（重み付けは等分）

※ 2 2)それ以外については、①がん、②脳卒中及び③心筋梗塞等の心血管疾患をそれぞれ評価（重み付けは等分）



## 機能評価係数Ⅱの見直し②

### 地域医療係数（体制評価指数）の見直し

- 社会や地域の実情に応じて求められている機能の評価という観点から、地域医療係数のうち体制評価指数について、「認定ドナーコーディネーターの院内配置」及び「地域の需要変動への応答性」に係る項目を新設する。

#### 認定ドナーコーディネーターの院内配置

DPC標準病院群	大学病院本院群	DPC特定病院群
過去3カ年において、法的脳死判定後の臓器提供の実績が1件以上（1P）	過去3カ年において、法的脳死判定後の臓器提供の実績が ・ 2件以上（1P） ・ 1件以上（0.5P）	
<u>認定ドナーコーディネーターの院内配置（過去3カ年において、法的脳死判定後の臓器提供の実績が0件の医療機関に限る。）（0.5P）</u> ※ 令和9年度以降の評価		

#### 地域の需要変動への応答性

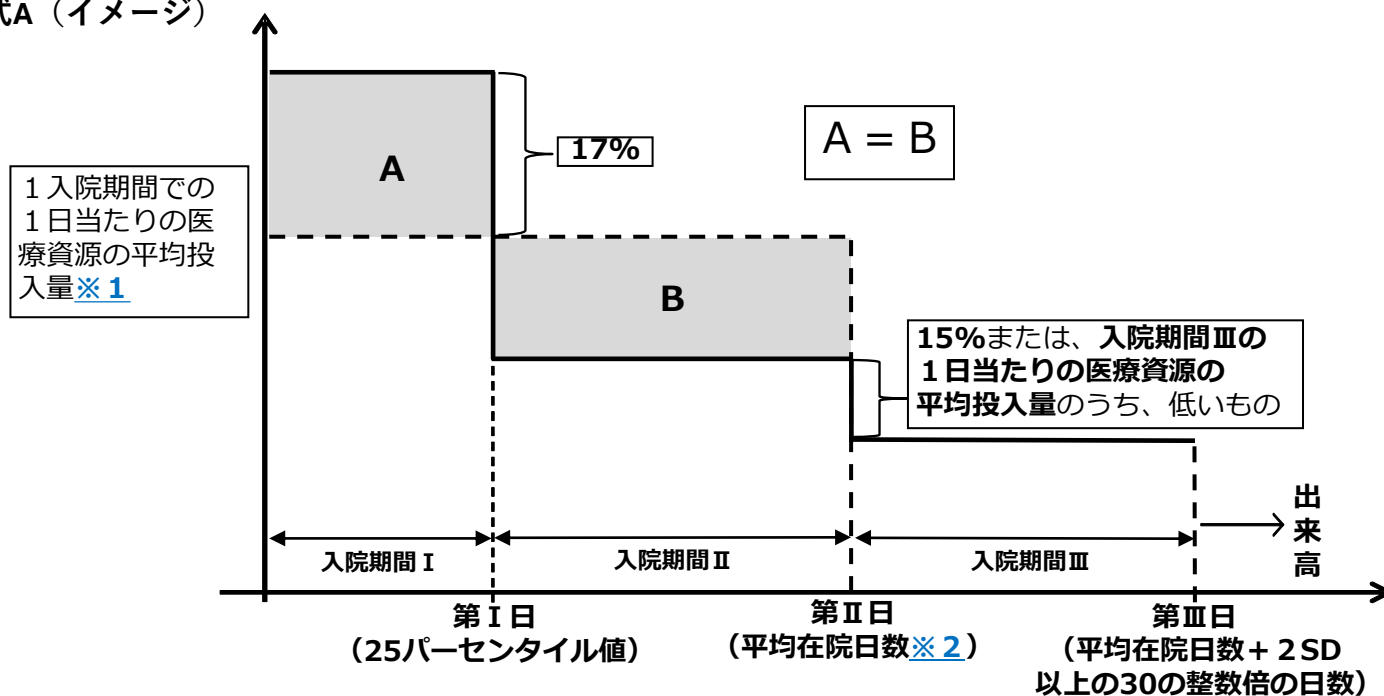
DPC標準病院群	大学病院本院群	DPC特定病院群
<u>各医療機関のDPC算定病床数に占める各日の入院患者数（DPC算定病床に限る。）の割合のばらつき（-1P）</u> ※ ばらつきが上位97.5%tile値以上の場合は0P、上位97.5%tile値未満の場合（ばらつきが著しく小さい場合）に限り-1P。		

## 診断群分類点数表の見直し①

### 入院期間Ⅱの見直し

- 多くの診断群分類において、平均在院日数が在院日数の中央値を上回っている実態を踏まえ、点数設定方式A、B及びCのうち在院日数の変動係数が0.6を下回る診断群分類について、10%を変動率の上限として、入院期間Ⅱを平均在院日数から在院日数の中央値へ見直すとともに、包括点数の設定を行う。

#### 点数設定方式A (イメージ)



※1 点数設定方式A～Cのうち、標準化の進んだ診断群分類においては、1入院期間での医療資源投入量の中央値（1入院期間での医療資源の平均投入量からの変動は±10%以内）を在院日数の中央値で除した値

※2 点数設定方式A～Cのうち、標準化の進んだ診断群分類においては、在院日数の中央値（平均在院日数からの変動は±10%以内）

## 診断群分類点数表の見直し②

### 診断群分類の見直し

- 医療資源の同等性、臨床的類似等の観点から、診断群分類の見直しを行い、令和8年度診療報酬改定においては以下のとおりとなった。

	MDC数※1	傷病名数	診断群分類数	包括対象※2	支払い分類※3
平成15年4月	16	575	2,552		1,860
平成16年4月	16	591	3,074		1,726
平成18年4月	16	516	2,347		1,438
平成20年4月	18	506	2,451		1,572
平成22年4月	18	507	2,658		1,880
平成24年4月	18	516	2,927		2,241
平成26年4月	18	504	2,873		2,309
平成28年4月	18	506	4,918	4,244	2,410
平成30年4月	18	505	4,955	4,296	2,462
令和2年4月	18	502	4,557	3,990	2,260
令和4年4月	18	502	4,726	4,064	2,334
令和6年6月	18	506	3,248※4	2,477※4	2,348
令和8年6月	18	504	3,265	2,449	2,321

※1 MDC : Major Diagnostic Category 主要診断群

※2 包括対象となるDPC数

※3 CCPマトリックスを導入した分類は、複数の診断群分類が同一の支払い分類となる。

※4 CCPマトリックスを導入した分類について、診断群分類としての構成の見直しを実施。

# 診断群分類の見直しの例

## 診断群分類の見直し

- 医療資源の同等性、臨床的類似性等の観点から、五号告示の対象となっていた手術や高額薬剤等を含め、手術や手術処置等の設定について整理を行い、分岐の新設等の対応を行う。

### 【例1：「130030」非ホジキンリンパ腫における手術の見直し】

疾患コード	傷病名	見直し前		⇒	見直し後	
		手術			手術	
		対応コード	処置等名称		対応コード	処置等名称
130030	非ホジキンリンパ腫	99 97	手術なし その他の手術あり	99 97 <b>01</b>	手術なし その他の手術あり <b>末梢血単核球採取</b> <b>CAR発現生T細胞投与</b>	

### 【例2：「070180」脊椎変形における手術の見直し】

疾患コード	傷病名	見直し前		⇒	見直し後	
		手術			手術	
		対応コード	点数表名称		対応コード	点数表名称
070180	脊椎変形	99 97	手術なし その他の手術あり	99 97 <b>02</b> <b>01</b>	手術なし その他の手術あり <b>脊椎側彎症手術</b> <b>脊椎側彎症固定術等</b> <b>脊椎骨切り術等</b>	

### 【例3：「180025」新型コロナウイルス感染症に係る診断群分類の新設】

疾患コード	傷病名	手術		手術・処置等 1		手術・処置等 2	
		対応コード	点数表名称	対応コード	点数表名称	対応コード	点数表名称
<b>180025</b>	<b>新型コロナウイルス感染症</b>	<b>99</b> <b>97</b>	<b>手術なし</b> <b>その他の手術あり</b>	<b>1</b> <b>1</b> <b>1</b>	<b>体外式膜型人工肺</b> <b>体外式膜型人工肺管理料</b> <b>人工心臓</b>	<b>4</b> <b>3</b> <b>3</b> <b>2</b> <b>1</b>	<b>人工呼吸</b> <b>トシリズマブ</b> <b>バリシチニブ</b> <b>レムデシビル</b> <b>人工腎臓</b> <b>その他の場合</b>

# 機能評価係数Ⅱ・救急補正係数の分布

<機能評価係数Ⅱの分布範囲等>

係数		最小値	～	最大値	25%tile値	中央値	75%tile値
効率性	DPC標準病院群	0.00000	～	0.06591	0.01538	0.02291	0.03162
	大学病院本院群	0.00129	～	0.04522	0.01817	0.02431	0.02956
	DPC特定病院群	0.00788	～	0.03825	0.01950	0.02264	0.02772
	合計	0.00000	～	0.06591	0.01608	0.02300	0.03090
複雑性	DPC標準病院群	0.00000	～	0.05168	0.01804	0.02467	0.03299
	大学病院本院群	0.00000	～	0.04884	0.01683	0.02035	0.03031
	DPC特定病院群	0.00000	～	0.05387	0.01693	0.02438	0.02964
	合計	0.00000	～	0.05387	0.01796	0.02456	0.03258
カバー率	DPC標準病院群	0.00136	～	0.07309	0.00663	0.01286	0.02300
	大学病院本院群	0.01312	～	0.03417	0.01898	0.02298	0.02605
	DPC特定病院群	0.00997	～	0.03893	0.01930	0.02219	0.02576
	合計	0.00136	～	0.07309	0.00760	0.01540	0.02426
地域医療	DPC標準病院群 1	0.00358	～	0.06862	0.01118	0.01570	0.02463
	DPC標準病院群 2	0.00533	～	0.06142	0.01444	0.01993	0.02709
	大学病院本院群	0.00842	～	0.04608	0.01718	0.02251	0.02990
	DPC特定病院群	0.00813	～	0.07811	0.01442	0.02012	0.02895
	合計	0.00358	～	0.07811	0.01229	0.01717	0.02626
合計値	DPC標準病院群 1	0.0233	～	0.1740	0.0712	0.0858	0.1040
	DPC標準病院群 2	0.0257	～	0.1412	0.0630	0.0820	0.0979
	大学病院本院群	0.0523	～	0.1320	0.0821	0.0936	0.1053
	DPC特定病院群	0.0493	～	0.1615	0.0794	0.0928	0.1056
	合計	0.0233	～	0.1740	0.0720	0.0864	0.1037

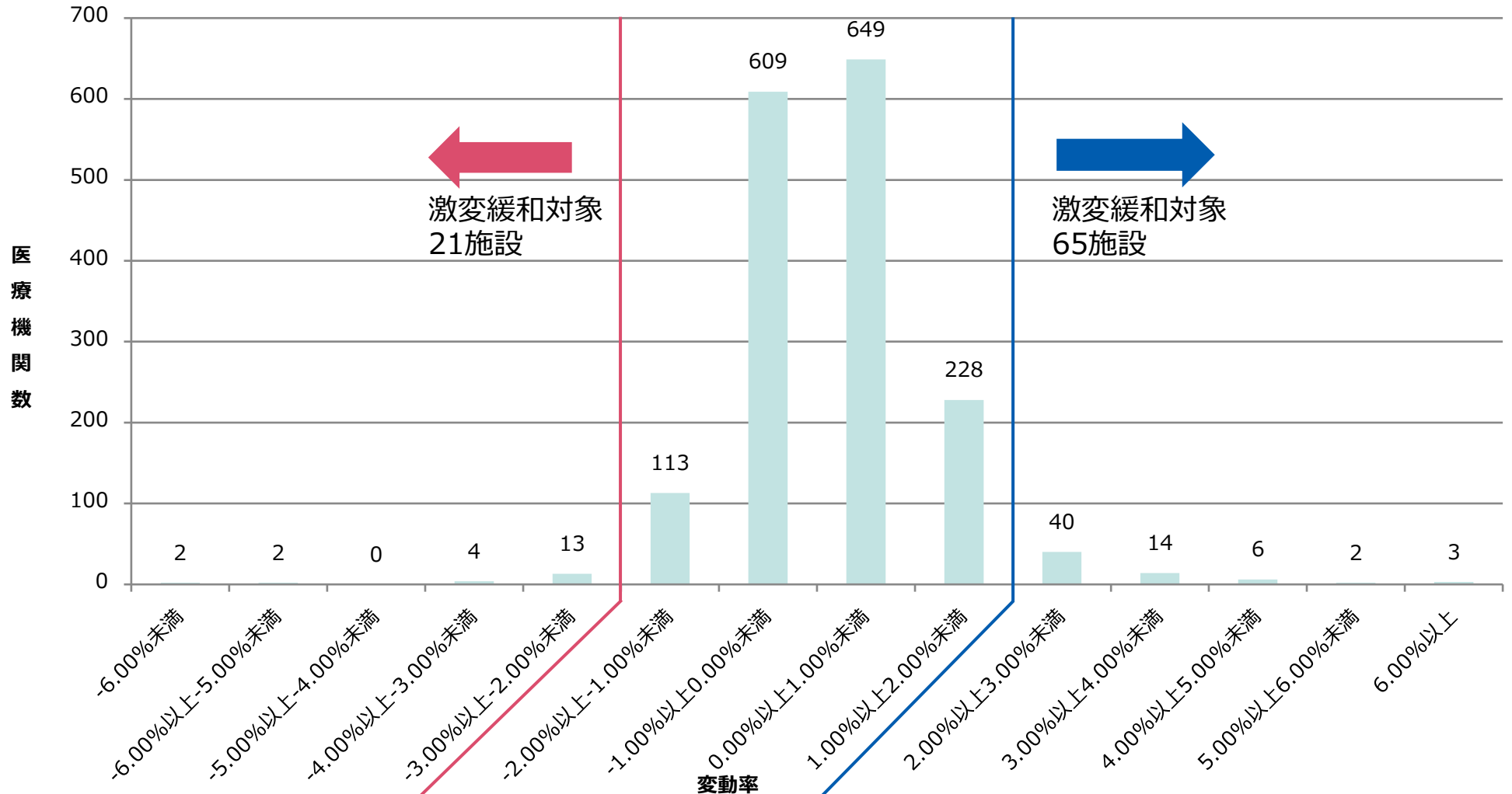
<救急補正係数の分布範囲等>

係数	最小値	～	最大値	25%tile値	中央値	75%tile値
救急補正	0.0000	～	0.0629	0.0154	0.0236	0.0310

# DPC対象病院数

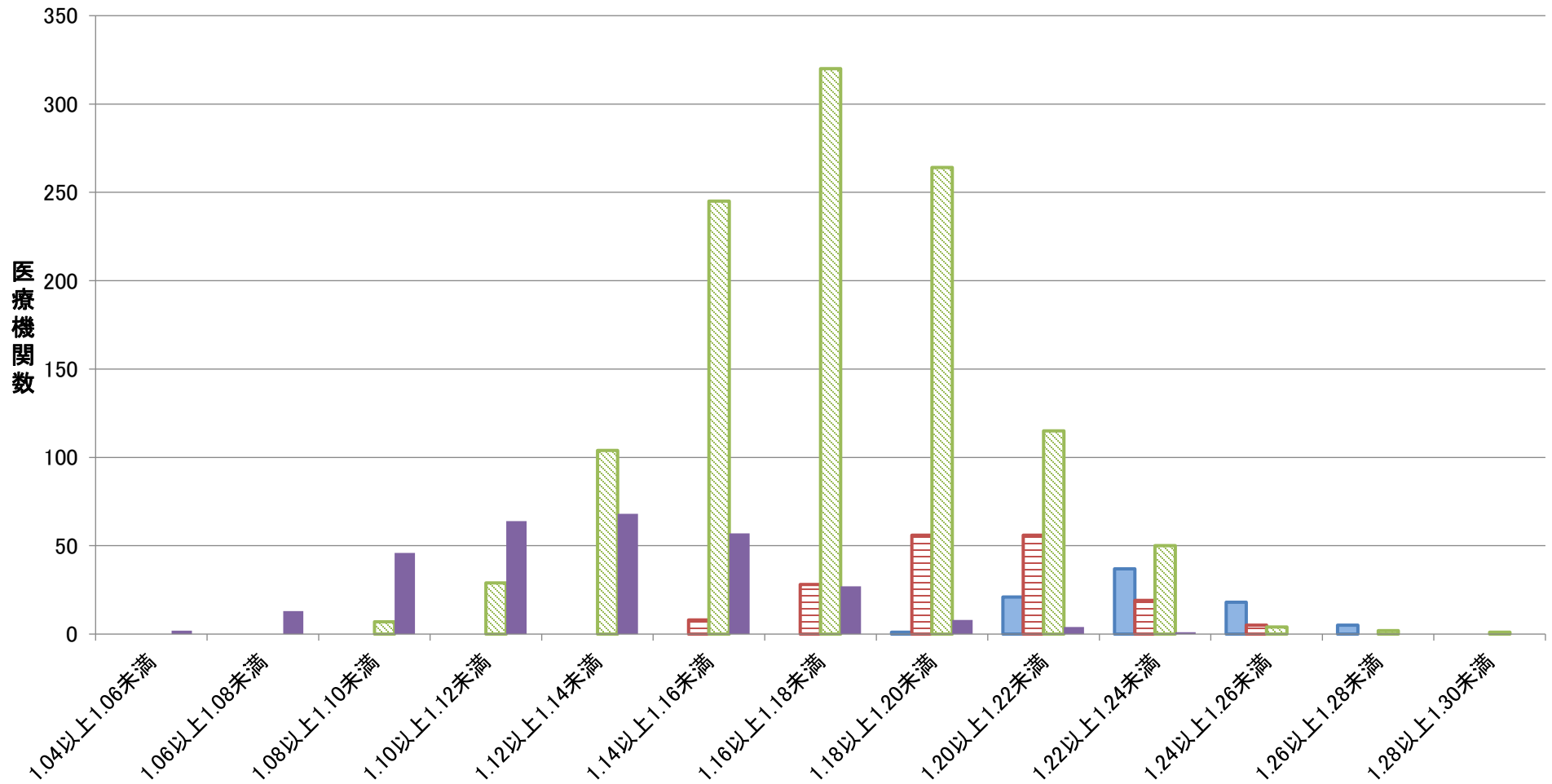
○ 令和8年度改定において、推計診療報酬変動率（出来高部分も含む）が2%を超えて変動しないよう激変緩和係数を設定。

## 令和8年度改定での推計変動率の分布



※ 入院基本料の増点等による影響は除外して集計を行っている。

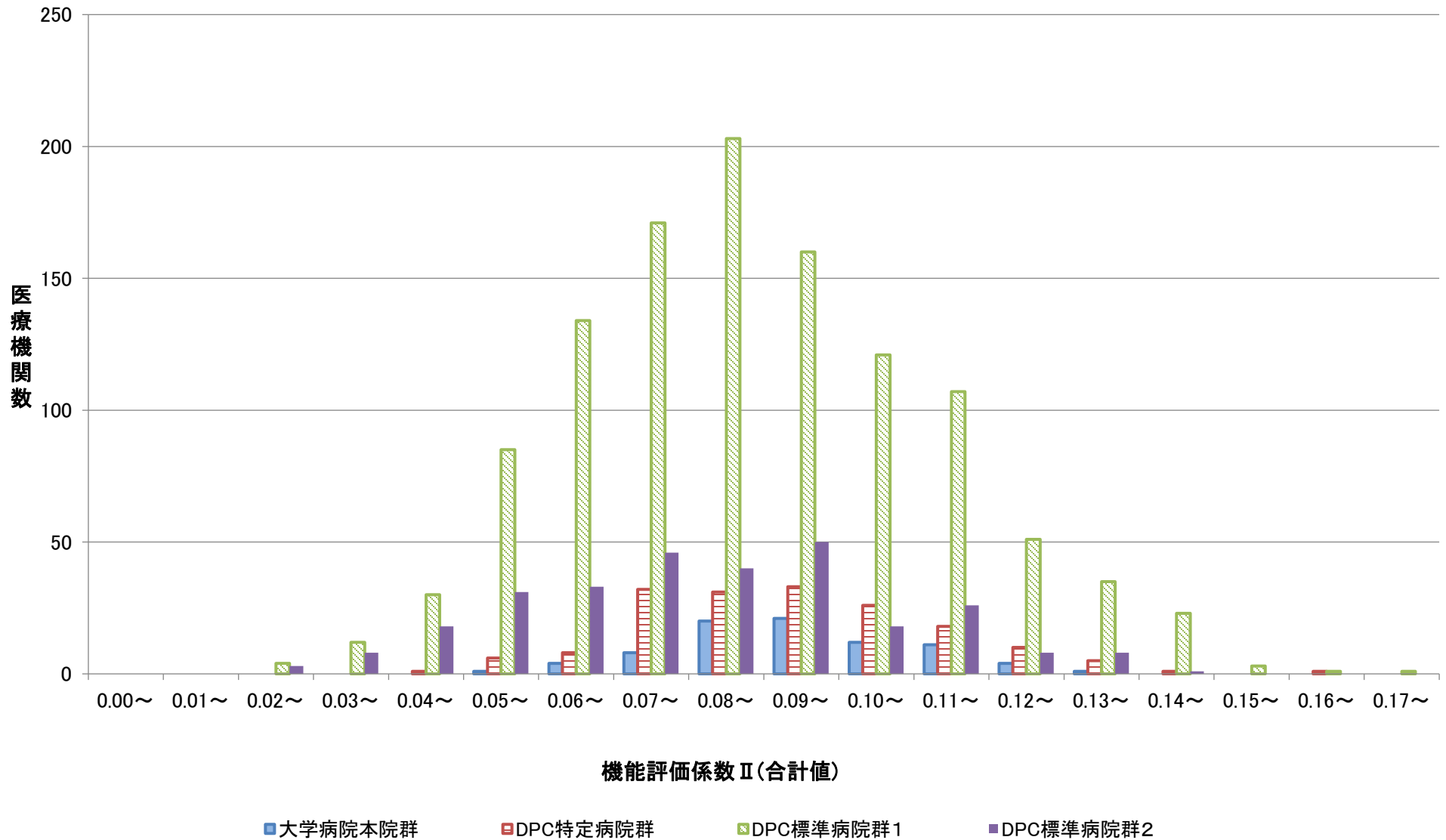
## 医療機関別係数の分布(医療機関群別)



医療機関別係数(機能評価係数Ⅰを除く)=(基礎係数)+(機能評価係数Ⅱ)+(救急補正係数)  
+(激変緩和係数)

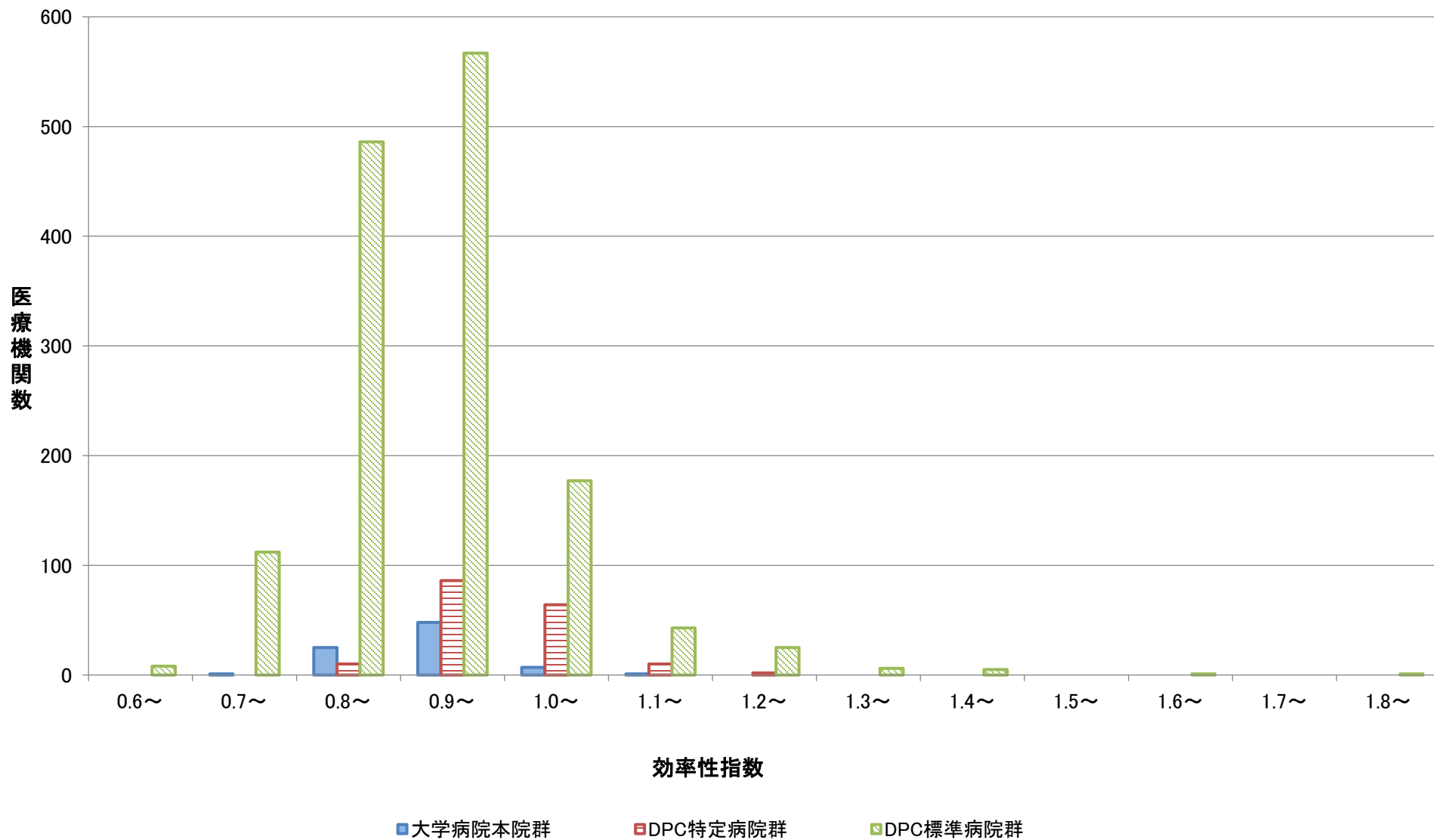
■ 大学病院本院群   ■ DPC特定病院群   ■ DPC標準病院群1   ■ DPC標準病院群2

## 機能評価係数Ⅱの合計(医療機関群別)



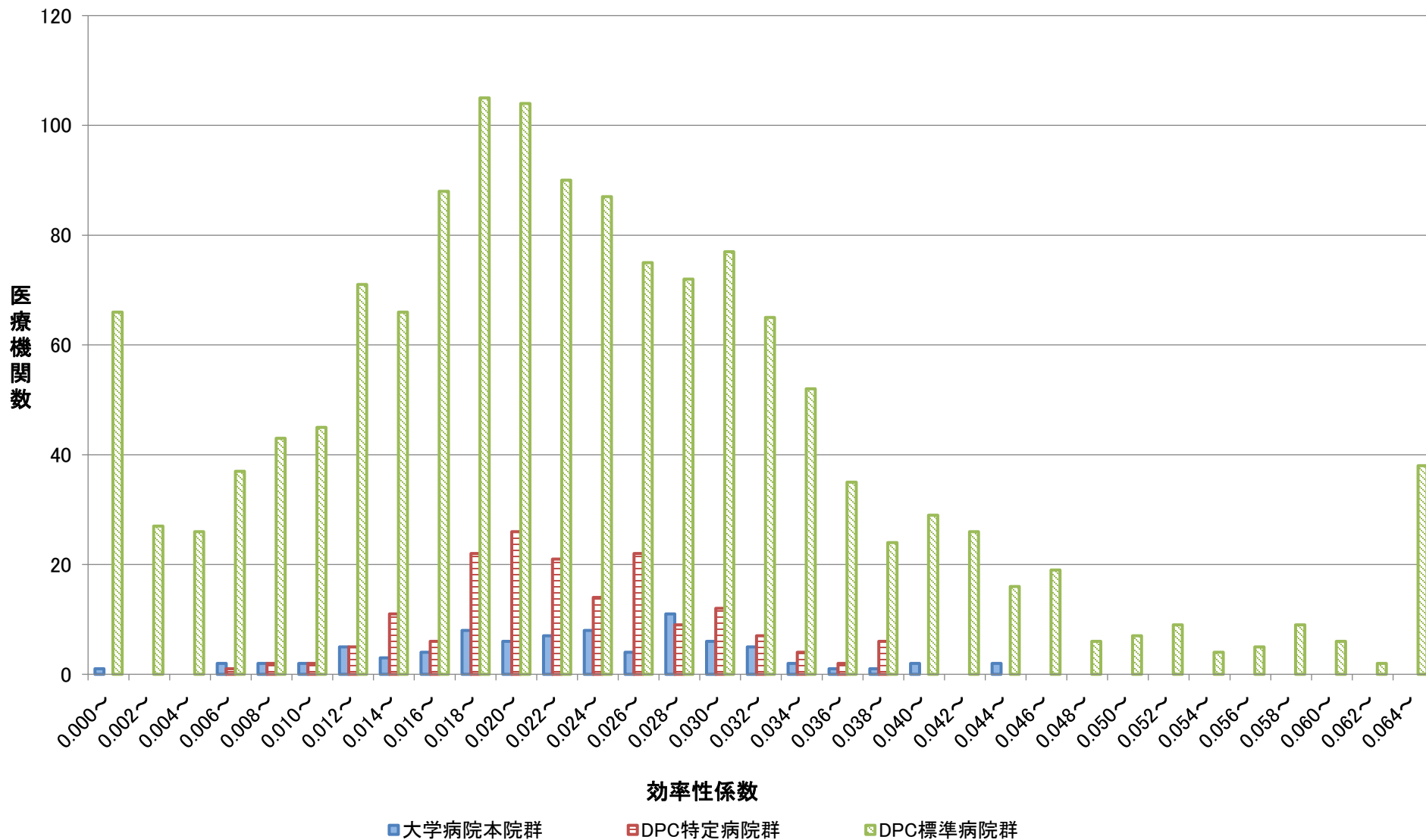
※0.01刻みで「0.04~」は「0.04以上0.05未満の区分」を表す

## 効率性指数の分布(医療機関群別)



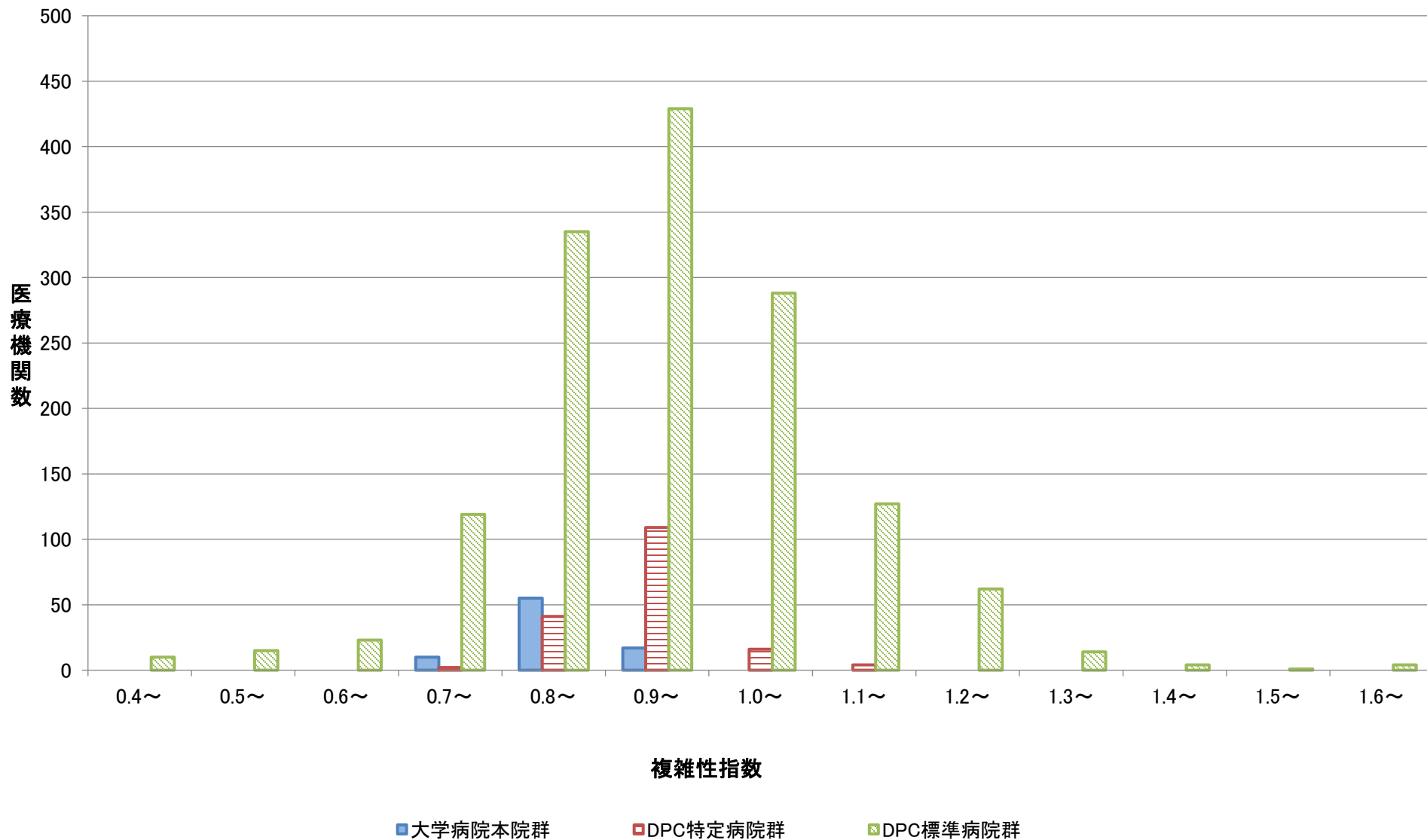
※0.1刻みで「1.2~」は「1.2以上1.3未満の区分」を表す

# 効率性係数の分布(医療機関群別)



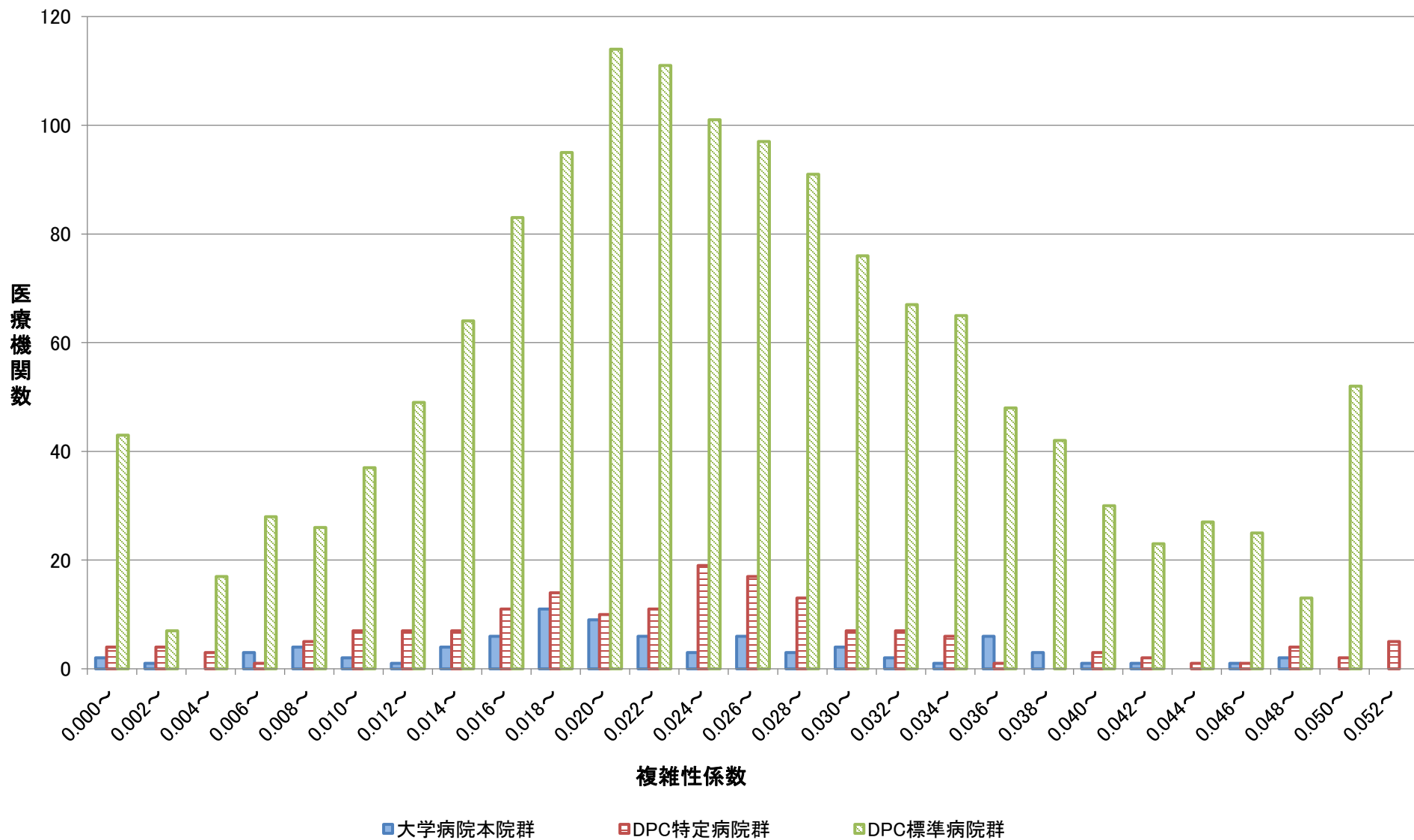
※0.002刻みで「0.008~」は「0.008以上0.010未満の区分」を表す

## 複雑性指数の分布(医療機関群別)



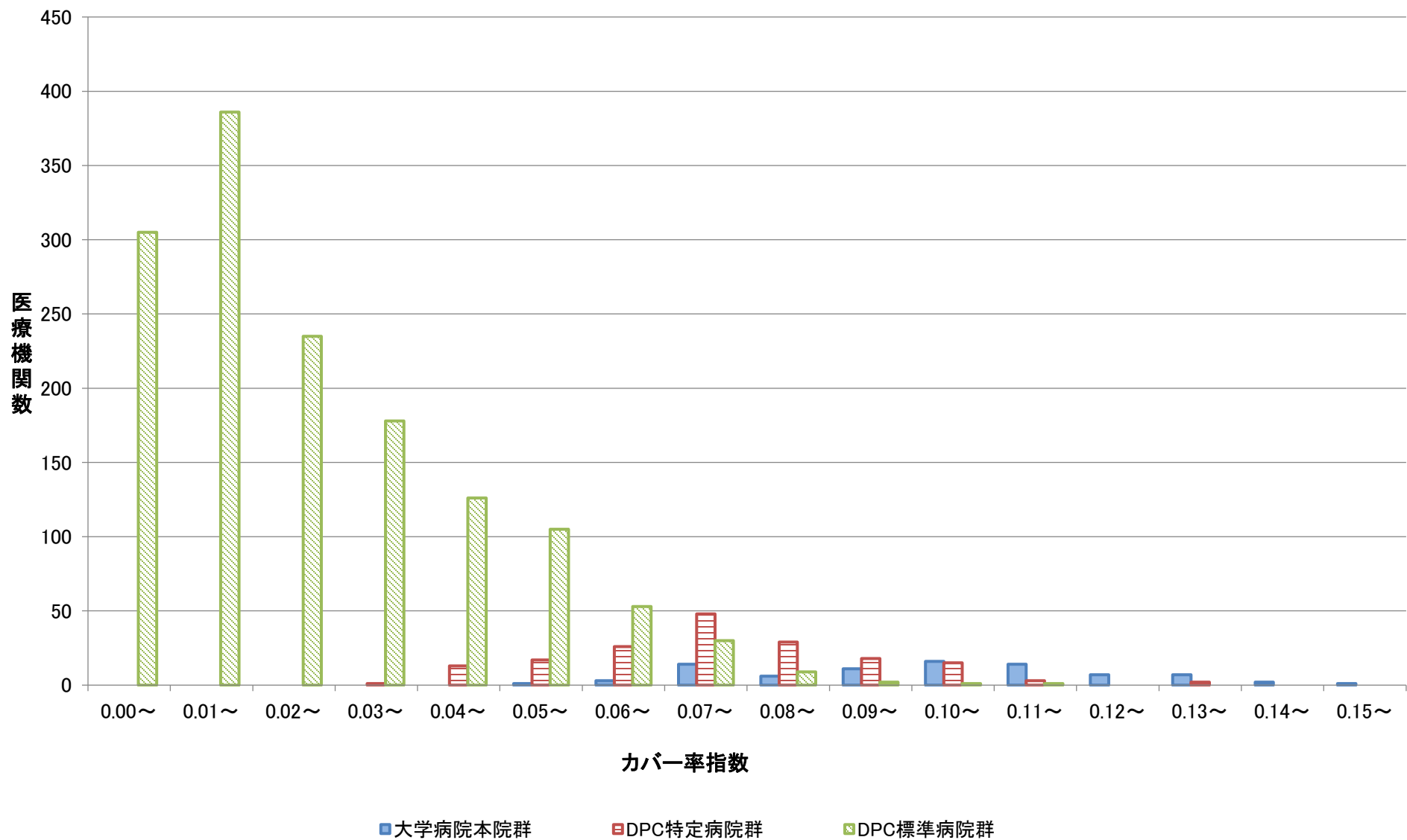
※0.1刻みで「1.2～」は「1.2以上1.3未満の区分」を表す

# 複雑性係数の分布(医療機関群別)



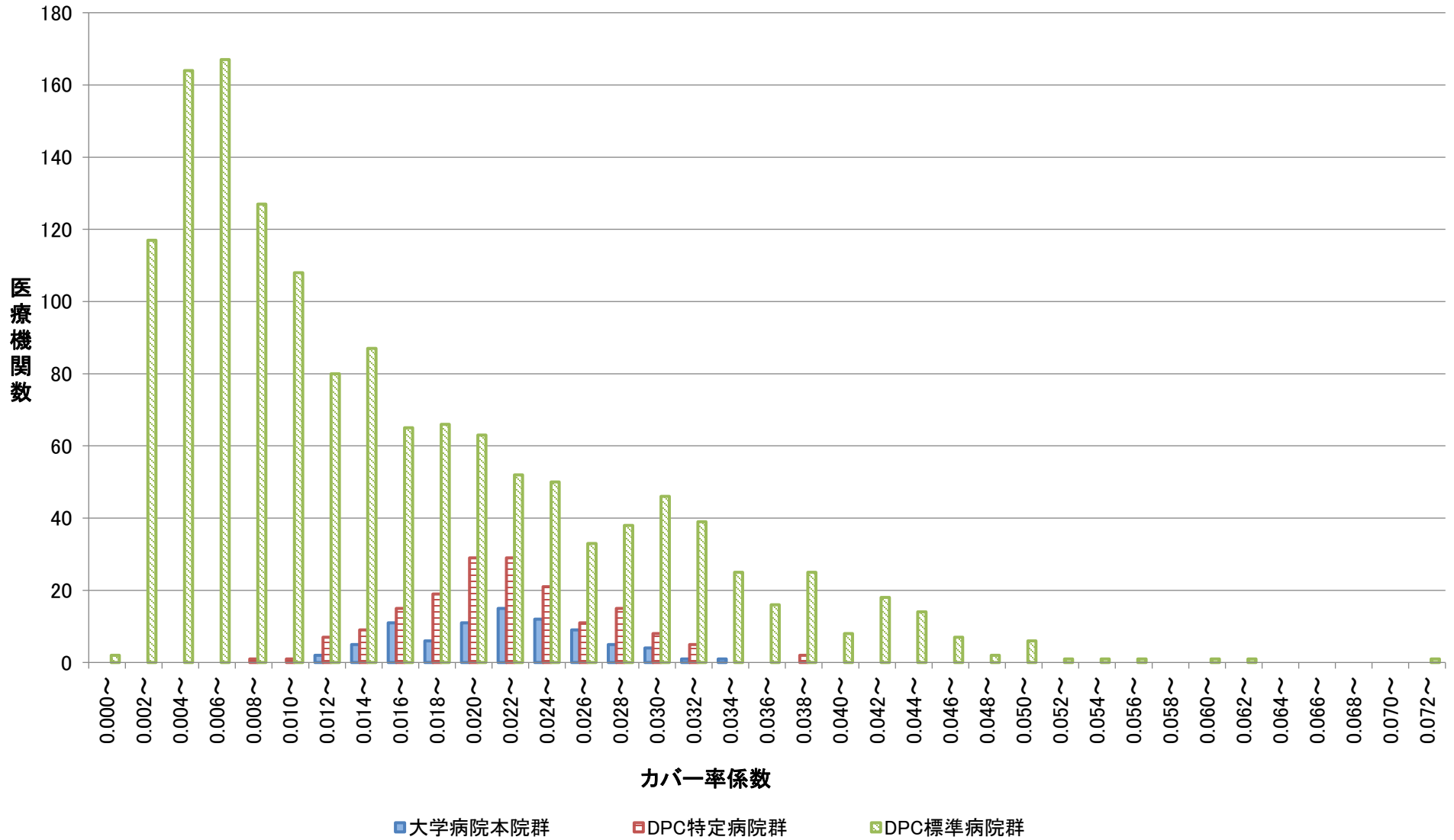
※0.002刻みで「0.008～」は「0.008以上0.010未満の区分」を表す

## カバー率指数の分布(医療機関群別)



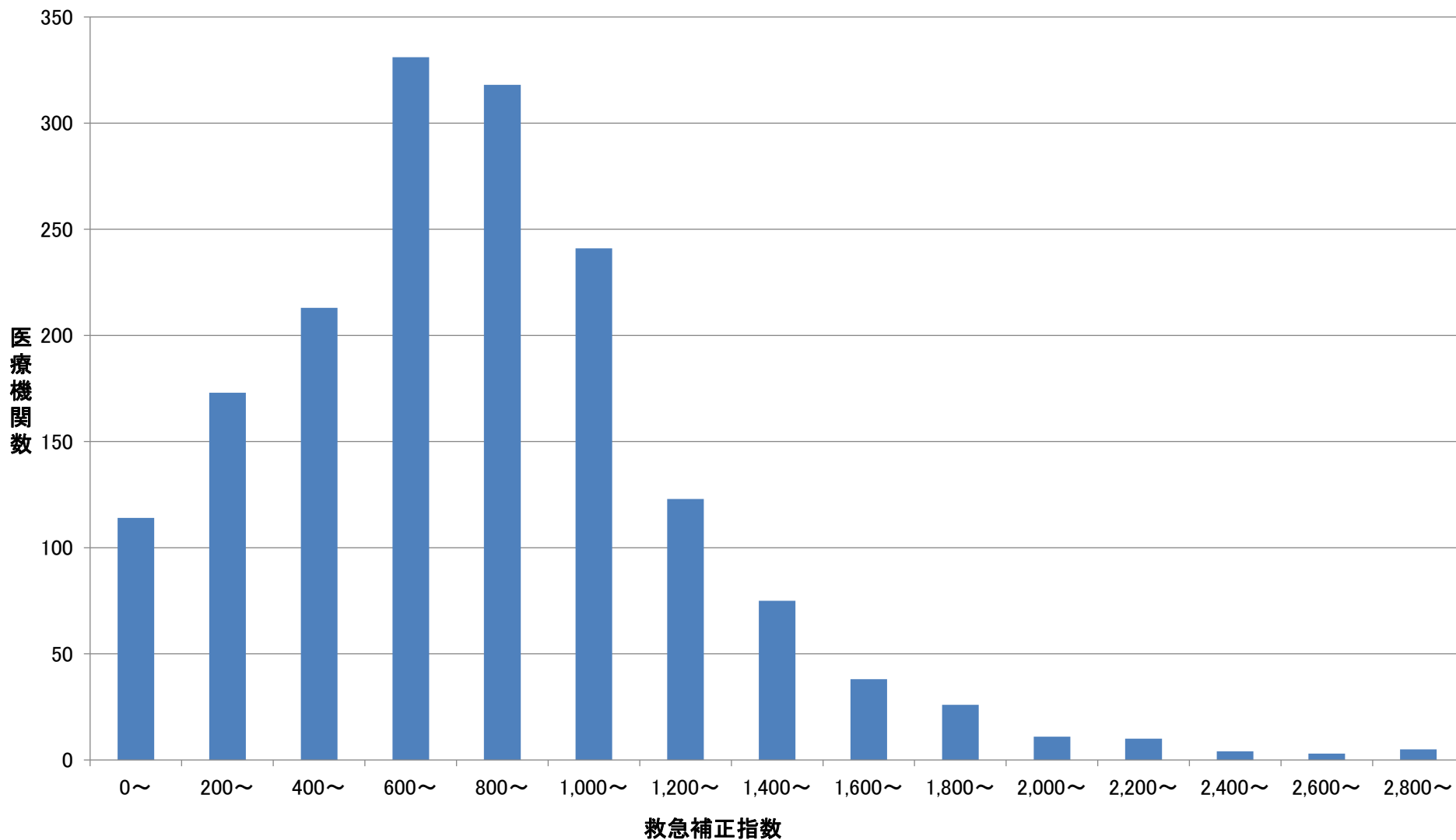
※0.01刻みで「0.12～」は「0.12以上0.13未満の区分」を表す

# カバー率係数の分布(医療機関群別)



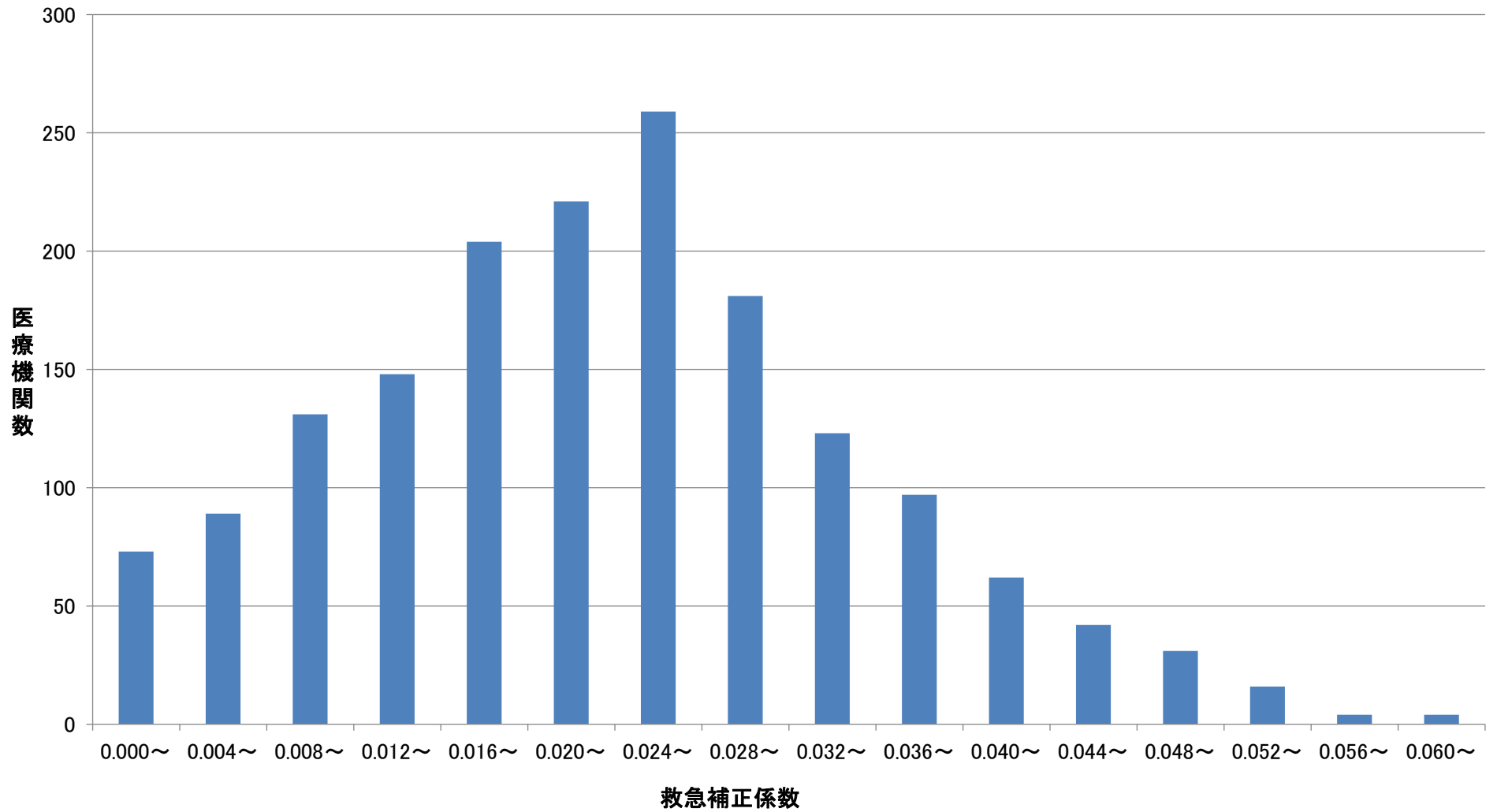
※0.002刻みで「0.008～」は「0.008以上0.010未満の区分」を表す

# 救急補正指数の分布(全病院)



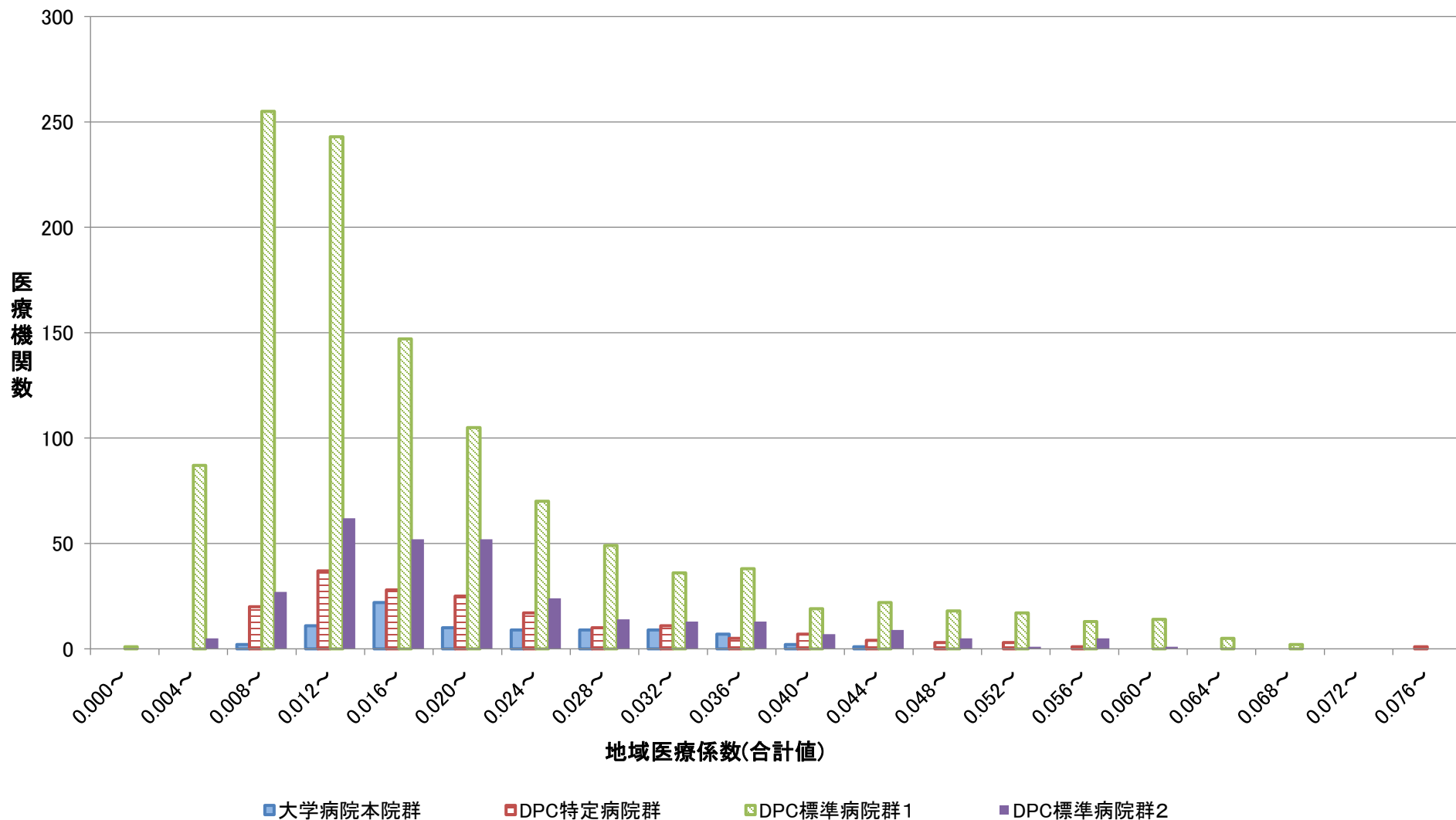
※200点/症例刻みで「800～」は「800点/症例以上1000点/症例未満の区分」を表す

## 救急補正係数の分布(全病院)



※0.004刻みで「0.008～」は「0.008以上0.012未満の区分」を表す

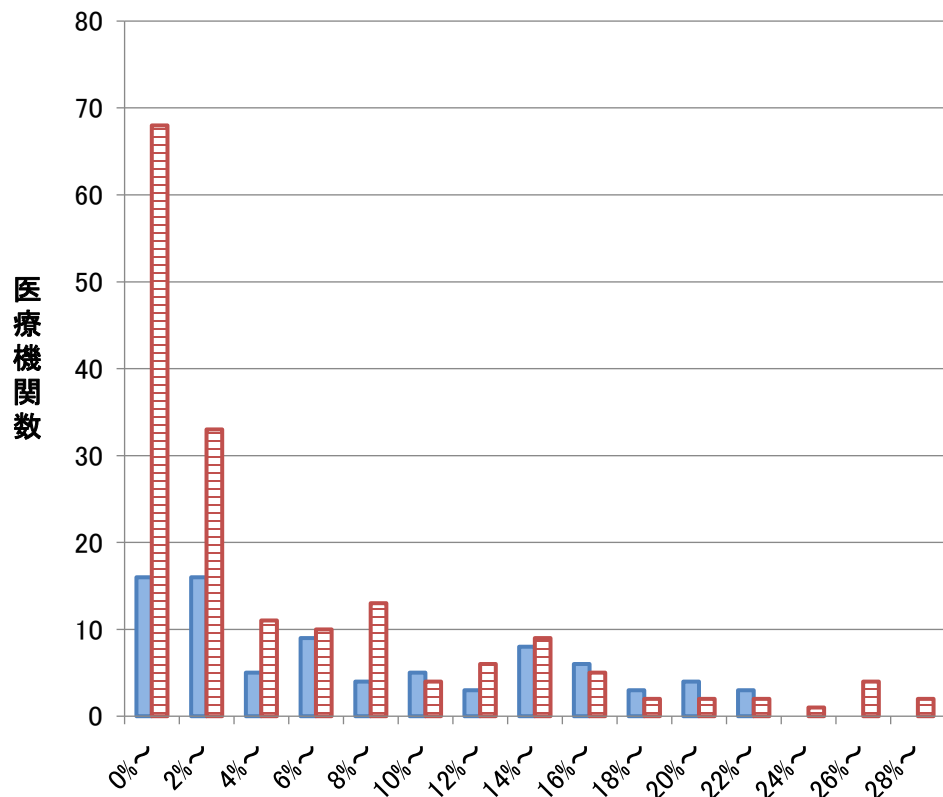
## 地域医療係数の分布(合計値)



※0.004刻みで「0.008～」は「0.008以上0.012未満の区分」を表す

# 地域医療指数・定量評価指数の分布(大学病院本院群・DPC特定病院群)

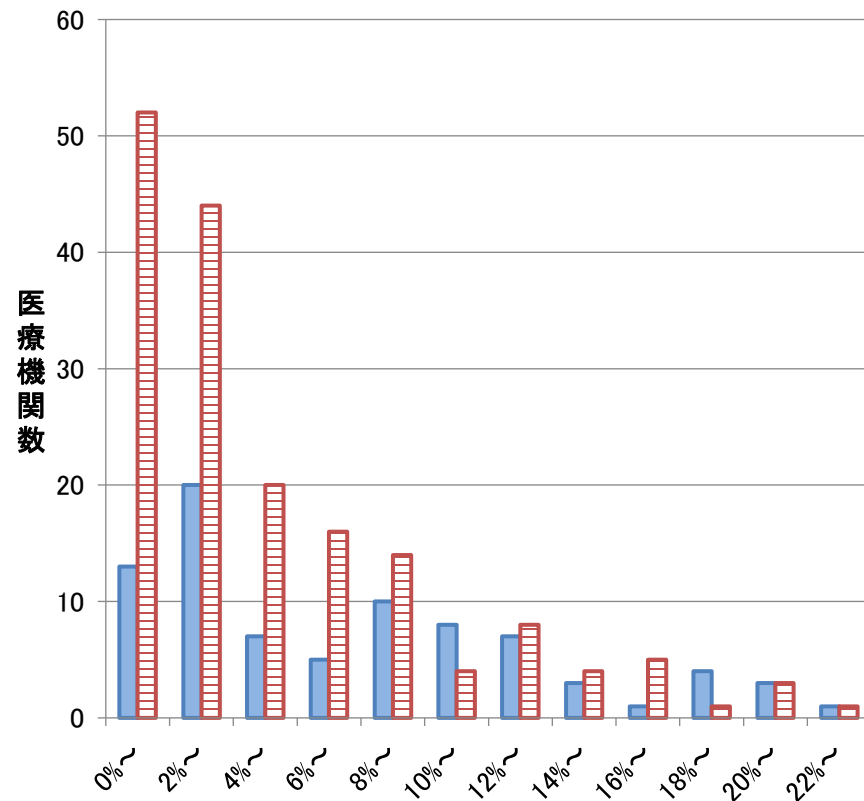
## 小児(15歳未満)



患者シェア(3次医療圏)

■大学病院本院群 ■DPC特定病院群

## 15歳以上



患者シェア(3次医療圏)

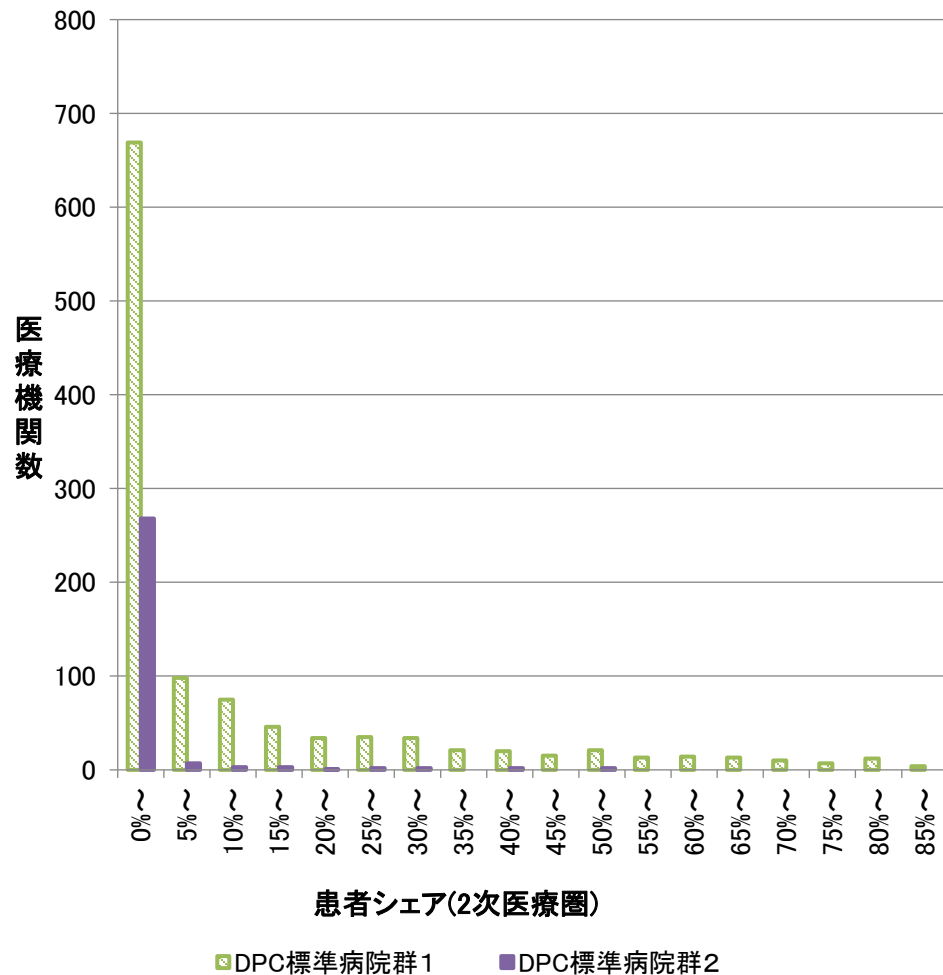
■大学病院本院群 ■DPC特定病院群

大学病院本院群・DPC特定病院群は、3次医療圏における患者シェアで評価

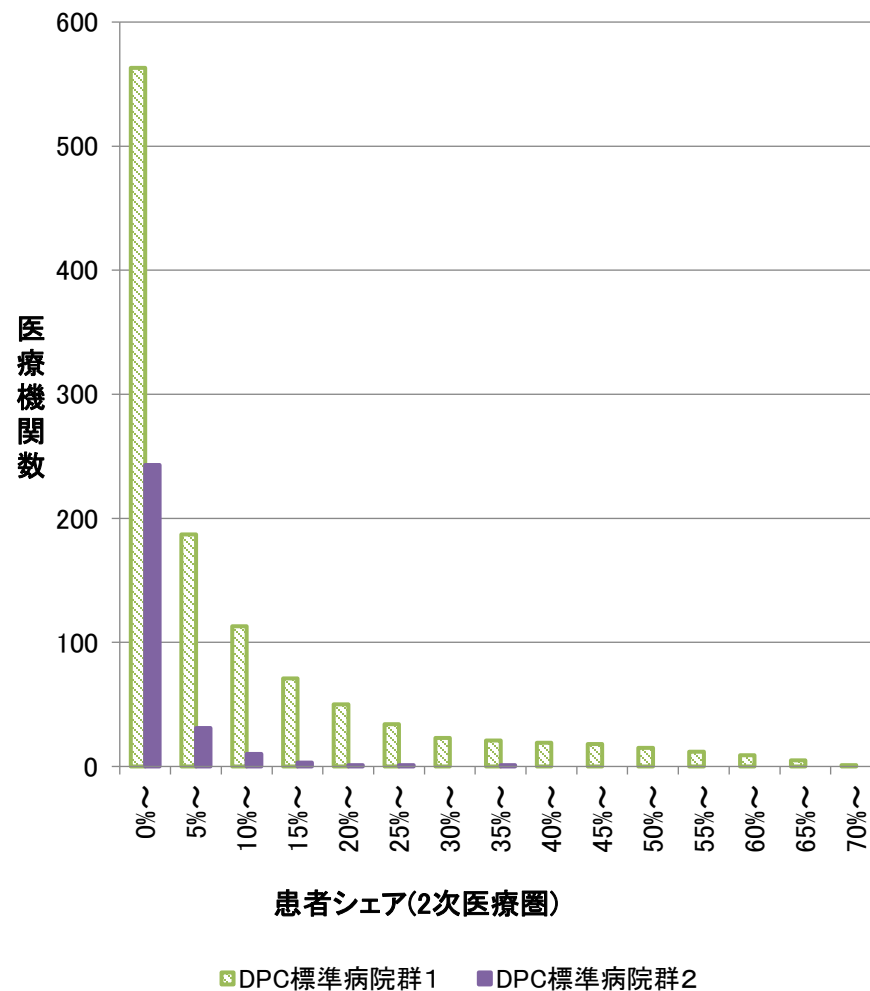
※2%刻みで「12%～」は「12%以上14%未満の区分」を表す

## 地域医療指数・定量評価指数の分布(DPC標準病院群)

### 小児及び周産期



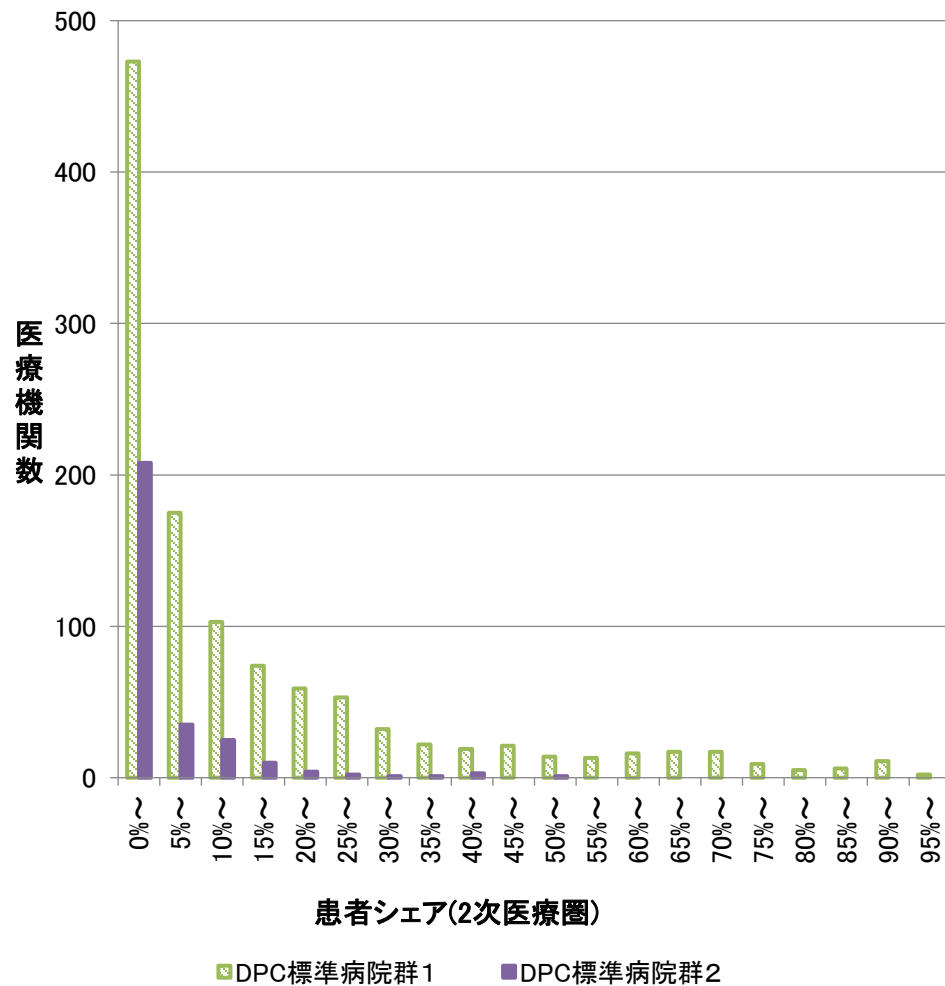
### がん



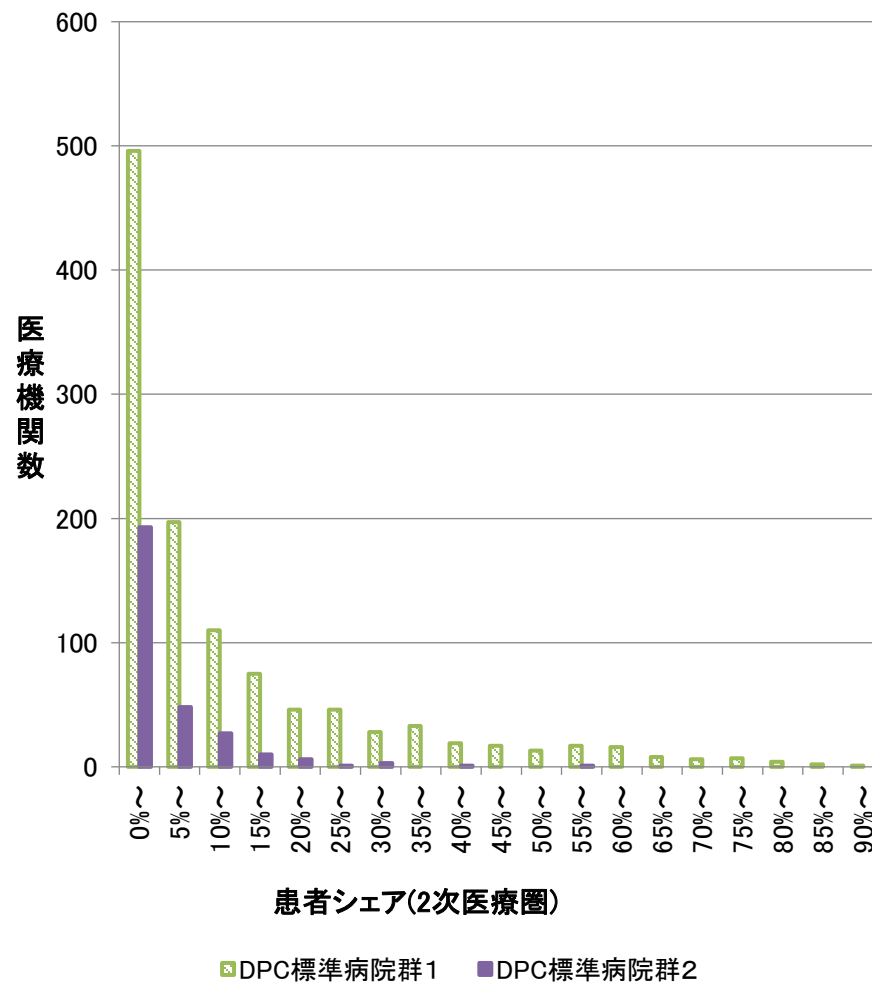
※5%刻みで「30%～」は「30%以上35%未満の区分」を表す

## 地域医療指数・定量評価指数の分布(DPC標準病院群)

### 脳卒中



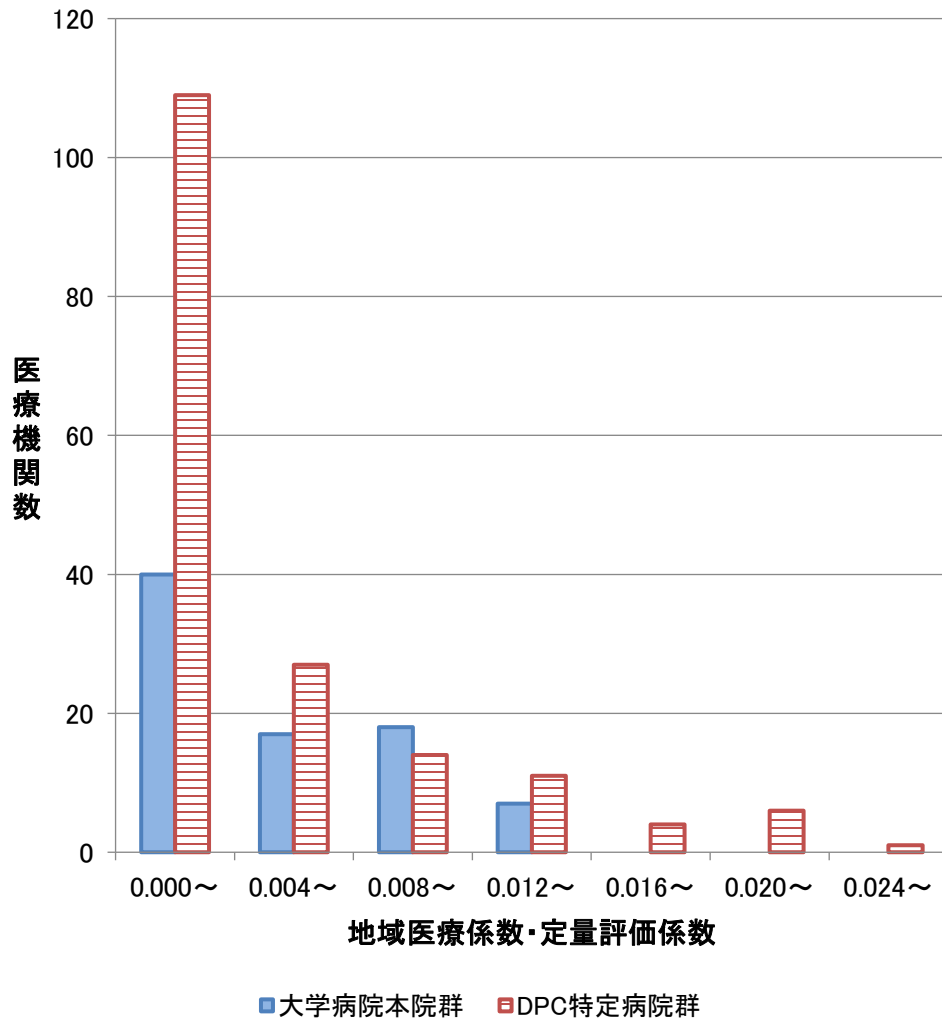
### 心筋梗塞等の心血管疾患



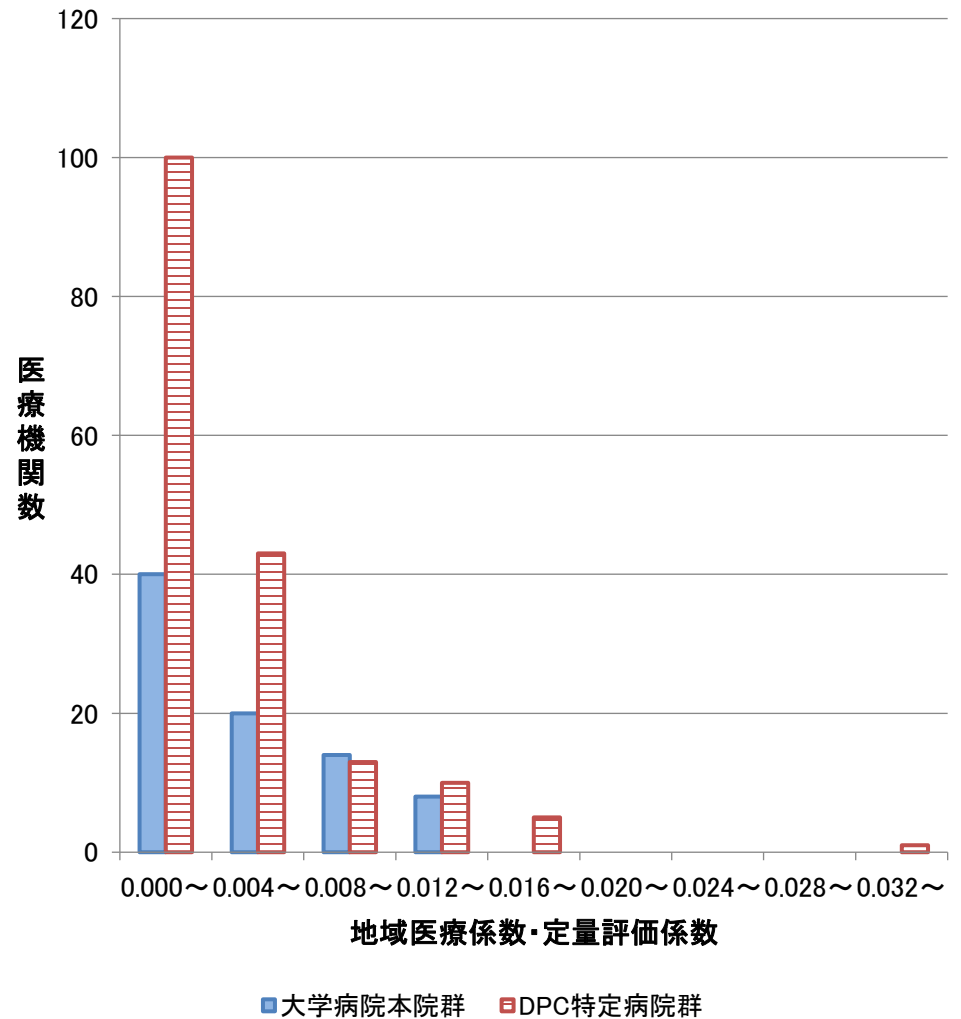
※5%刻みで「30%～」は「30%以上35%未満の区分」を表す

# 地域医療係数・定量評価係数の分布(大学病院本院群・DPC特定病院群)

## 小児(15歳未満)



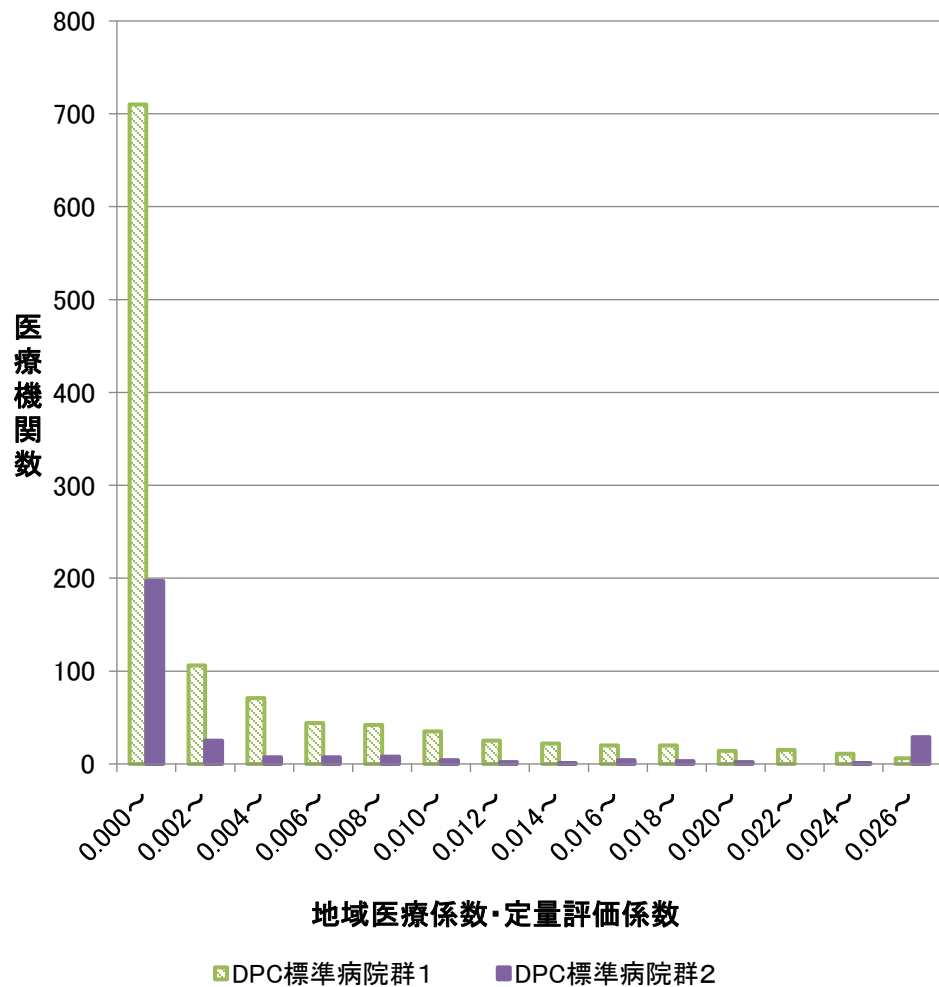
## 15歳以上



※0.004刻みで「0.008～」は「0.008以上0.012未満の区分」を表す

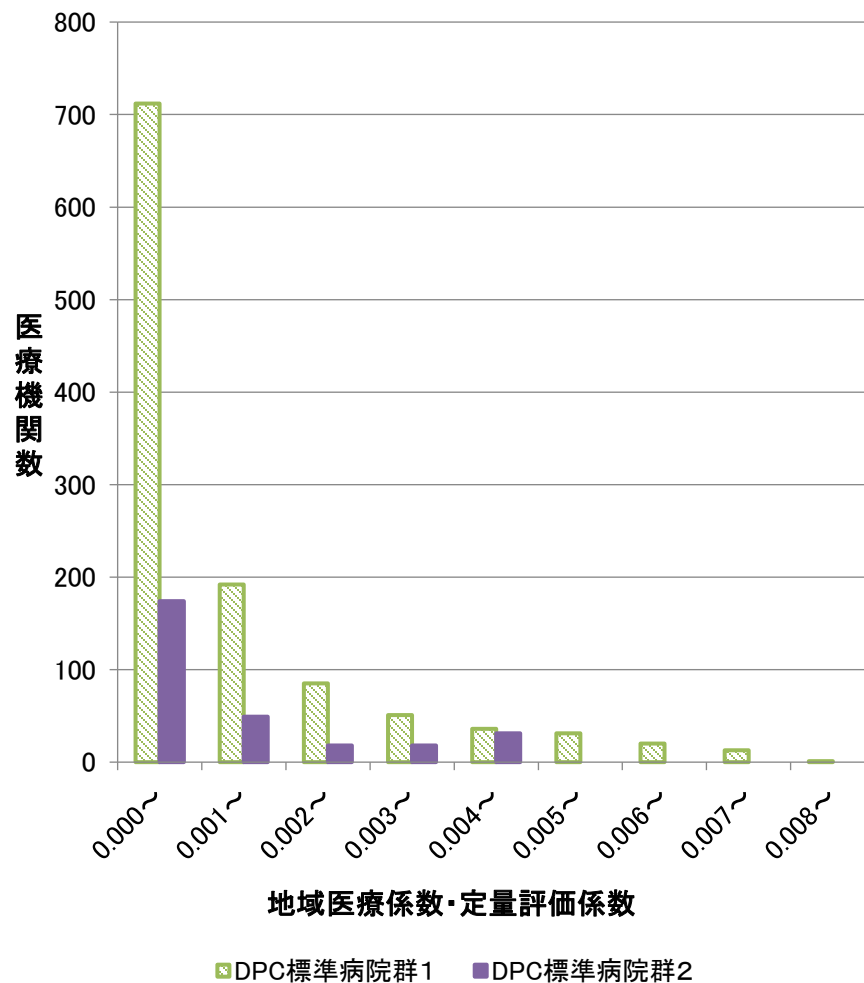
## 地域医療係数・定量評価係数の分布(DPC標準病院群)

### 小児及び周産期



※0.002刻みで「0.008～」は「0.008以上0.010未満の区分」を表す

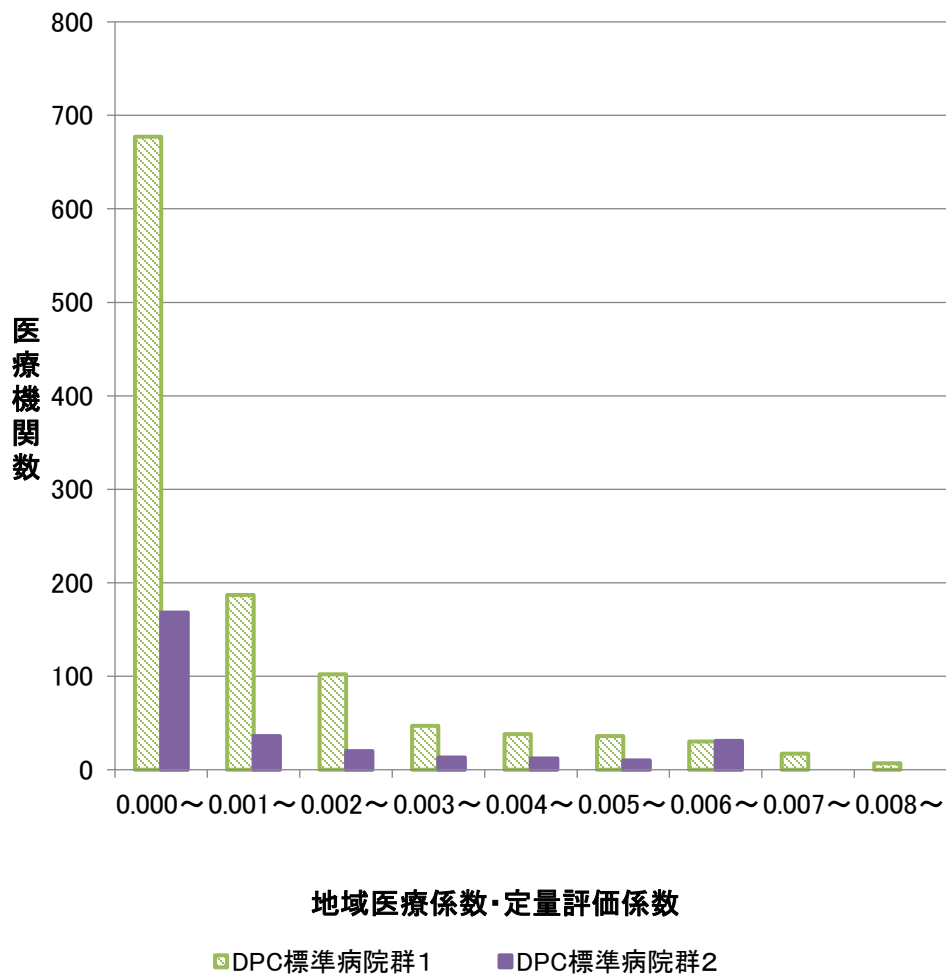
### がん



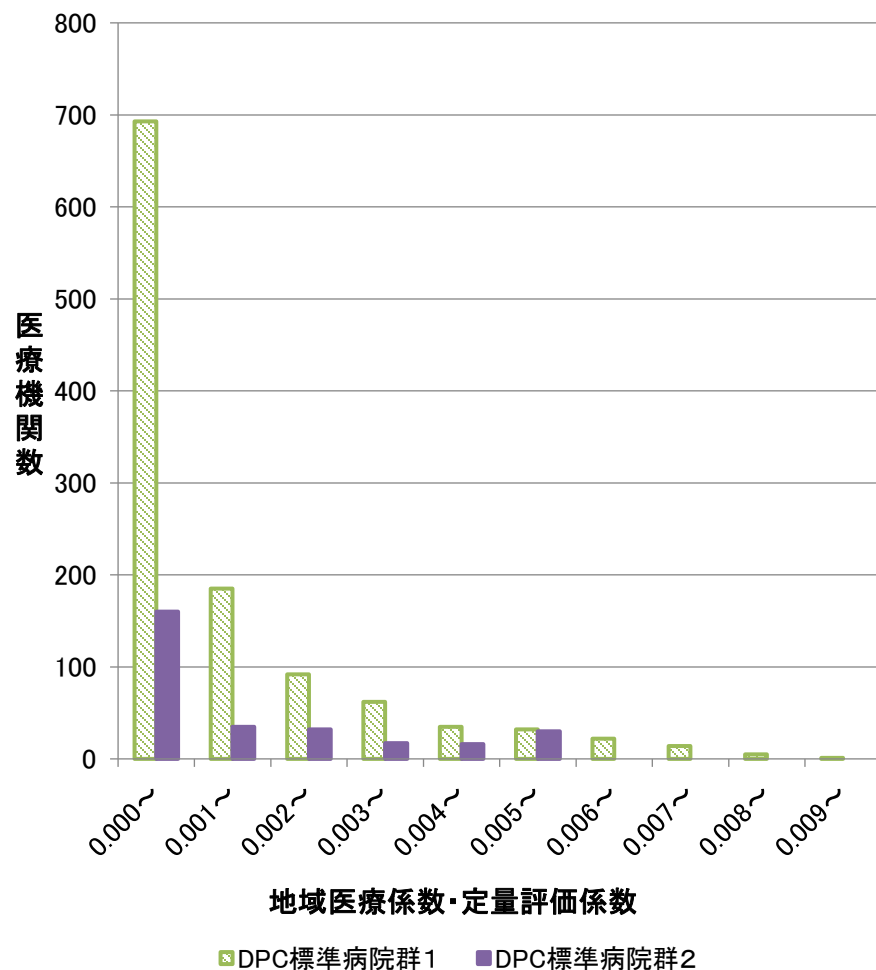
※0.001刻みで「0.008～」は「0.008以上0.009未満の区分」を表す

## 地域医療係数・定量評価係数の分布(DPC標準病院群)

### 脳卒中

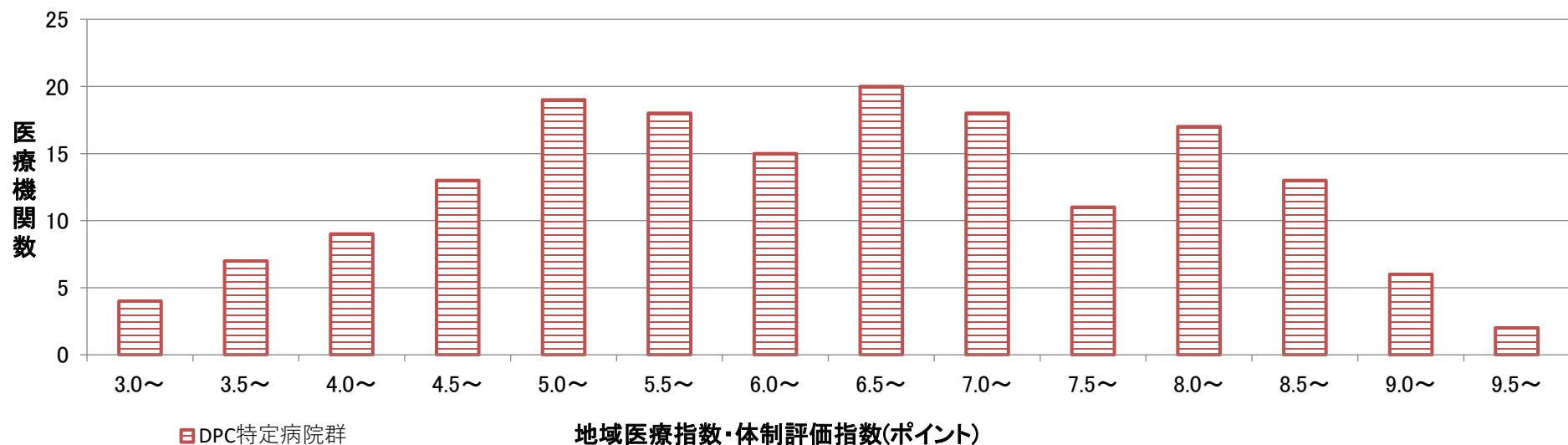
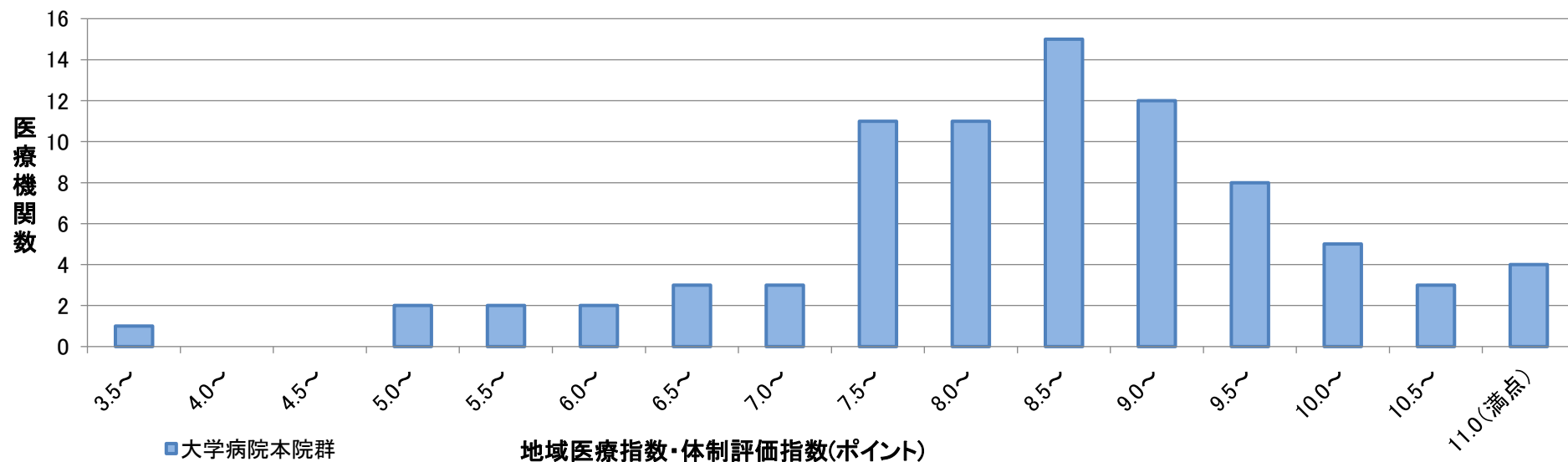


### 心筋梗塞等の心血管疾患



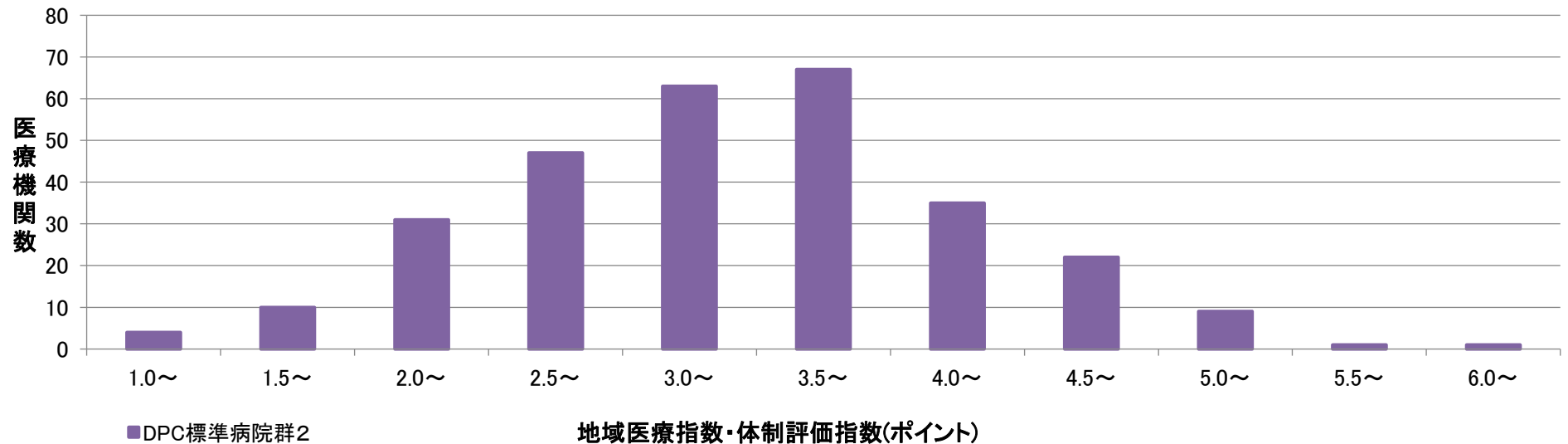
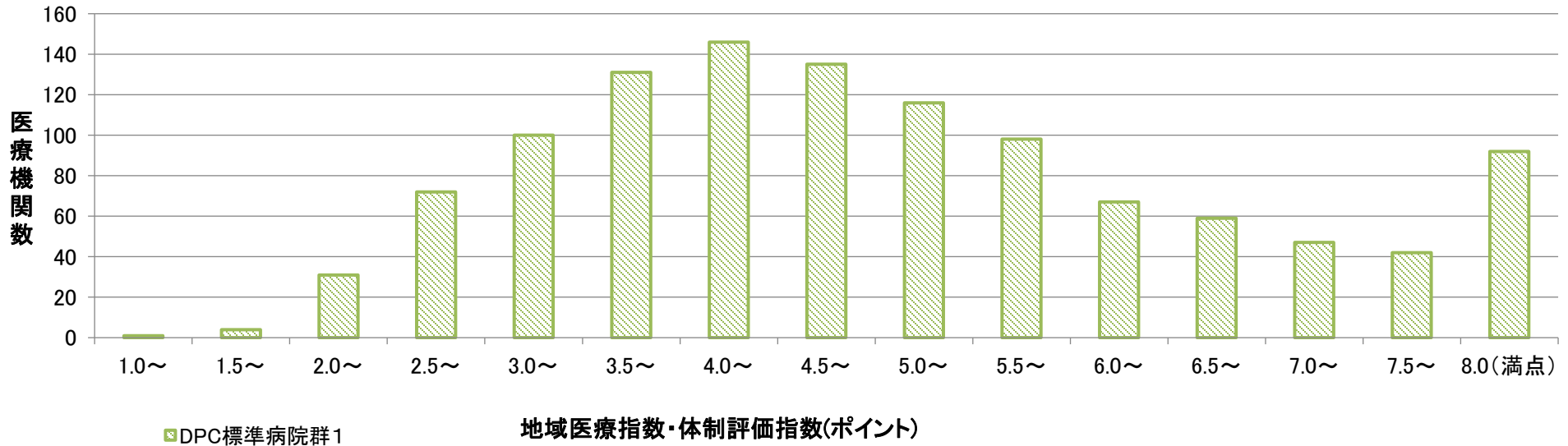
※0.001刻みで「0.008～」は「0.008以上0.009未満の区分」を表す

## 地域医療指数・体制評価指数の分布(医療機関群別)



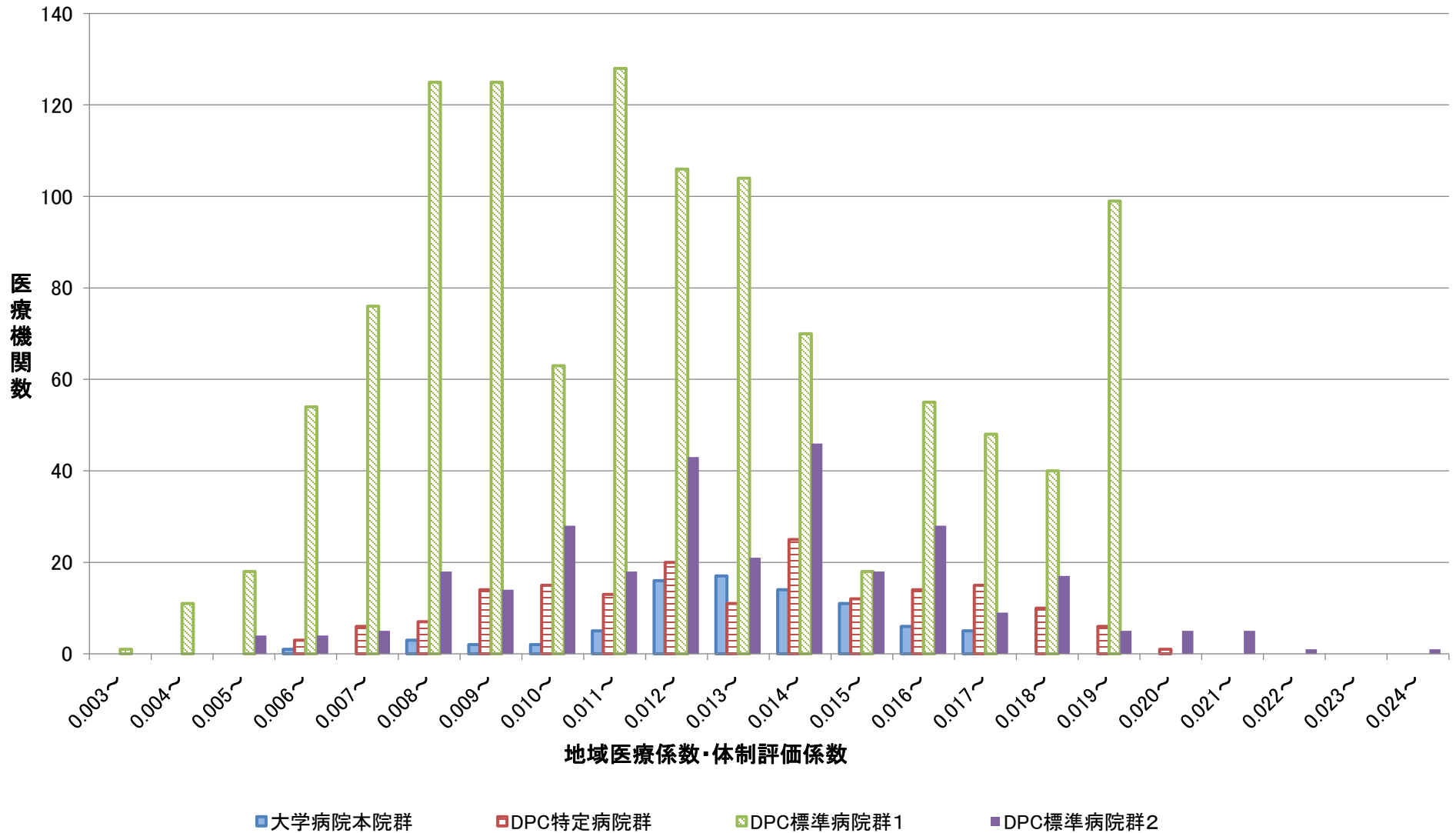
※0.5刻みで「3.0~」は「3.0以上3.5未満の区分」を表す

## 地域医療指数・体制評価指数の分布(医療機関群別)



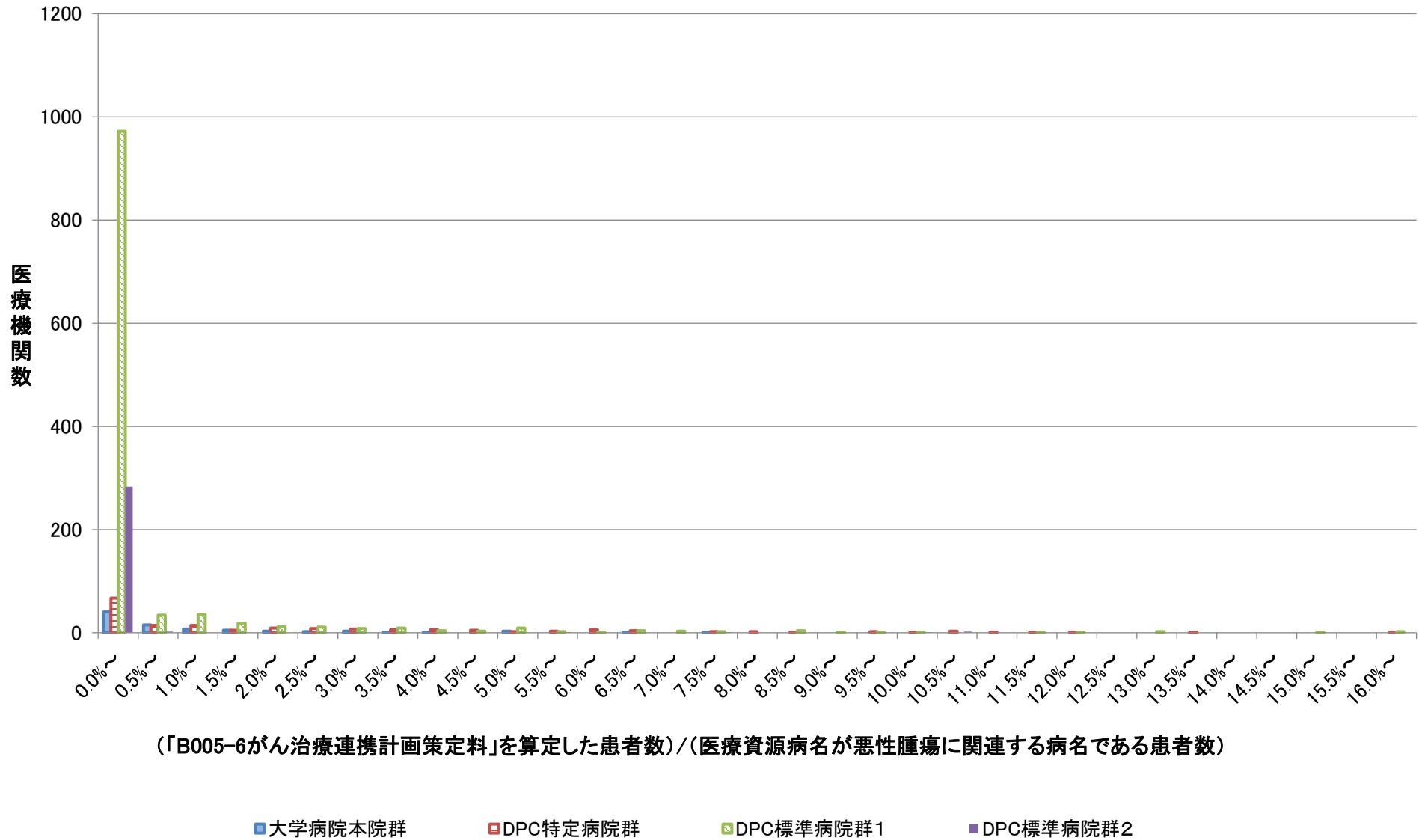
※0.5刻みで「3.0~」は「3.0以上3.5未満の区分」を表す

## 地域医療係数・体制評価係数の分布(医療機関群別)



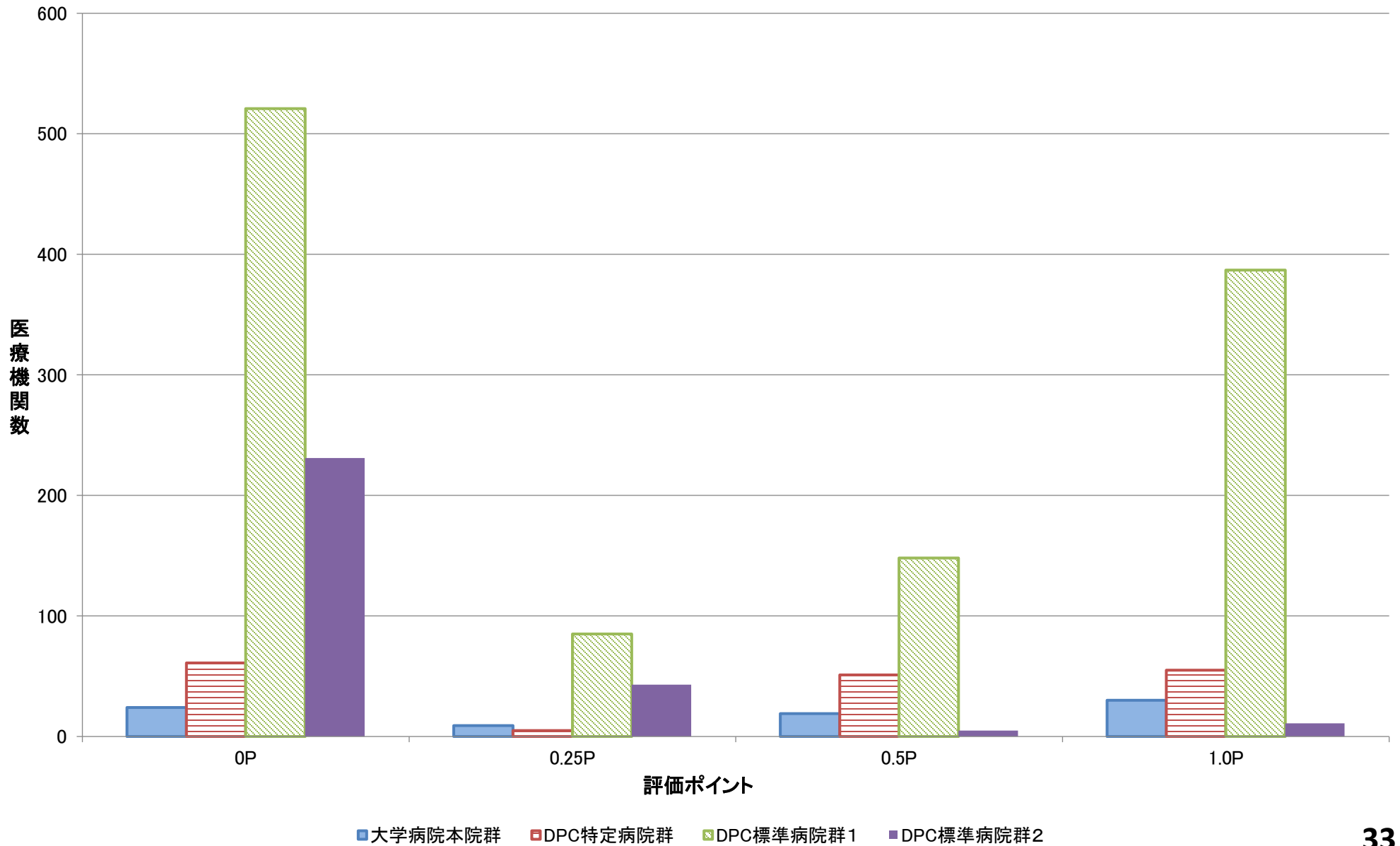
※0.001刻みで「0.003~」は「0.003以上0.004未満の区分」を表す

# がん地域連携

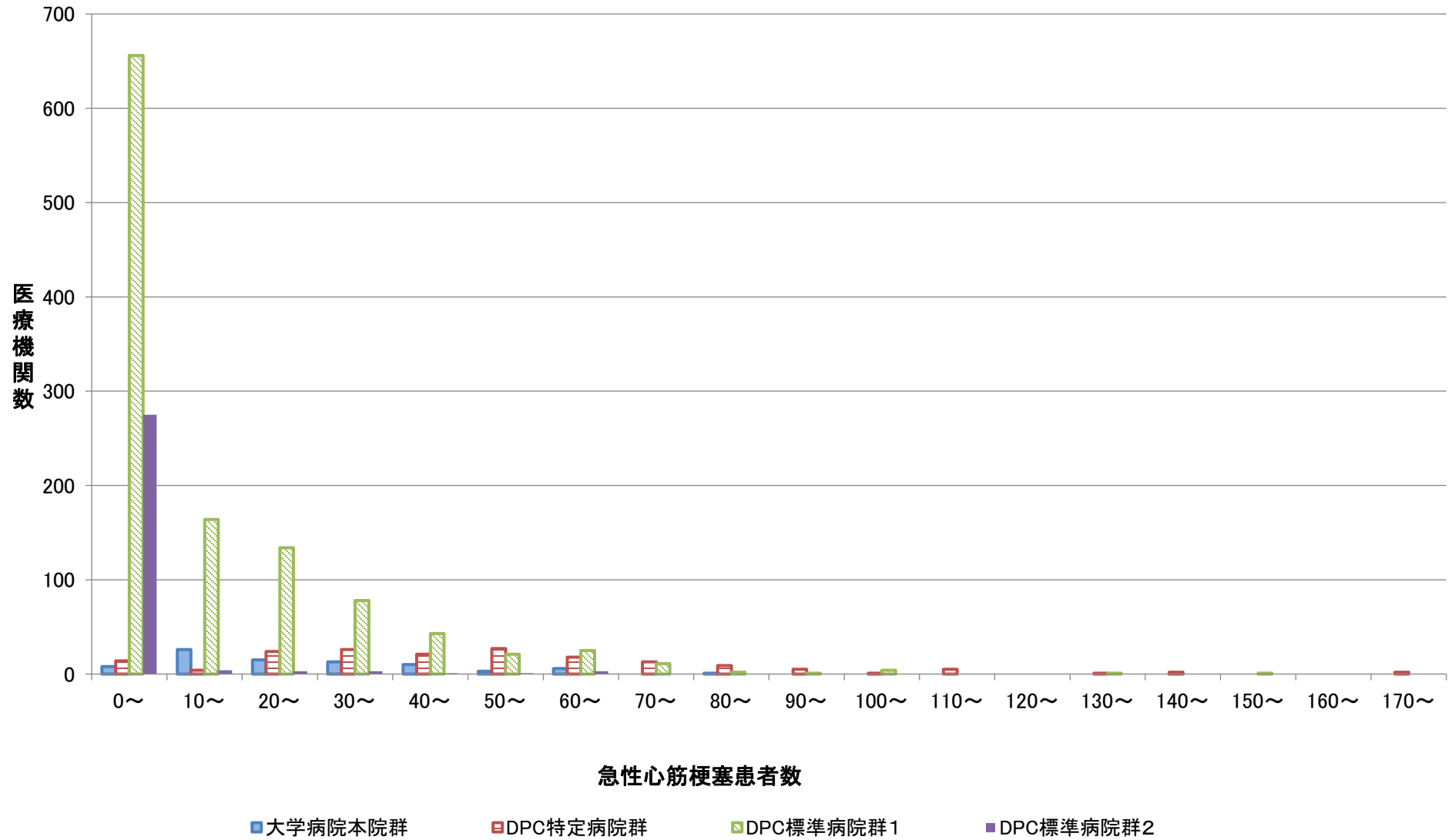


※0.5%刻みで「3.0%~」は「3.0%以上3.5%未満の区分」を表す

# 脳卒中の急性期の診療実績への評価

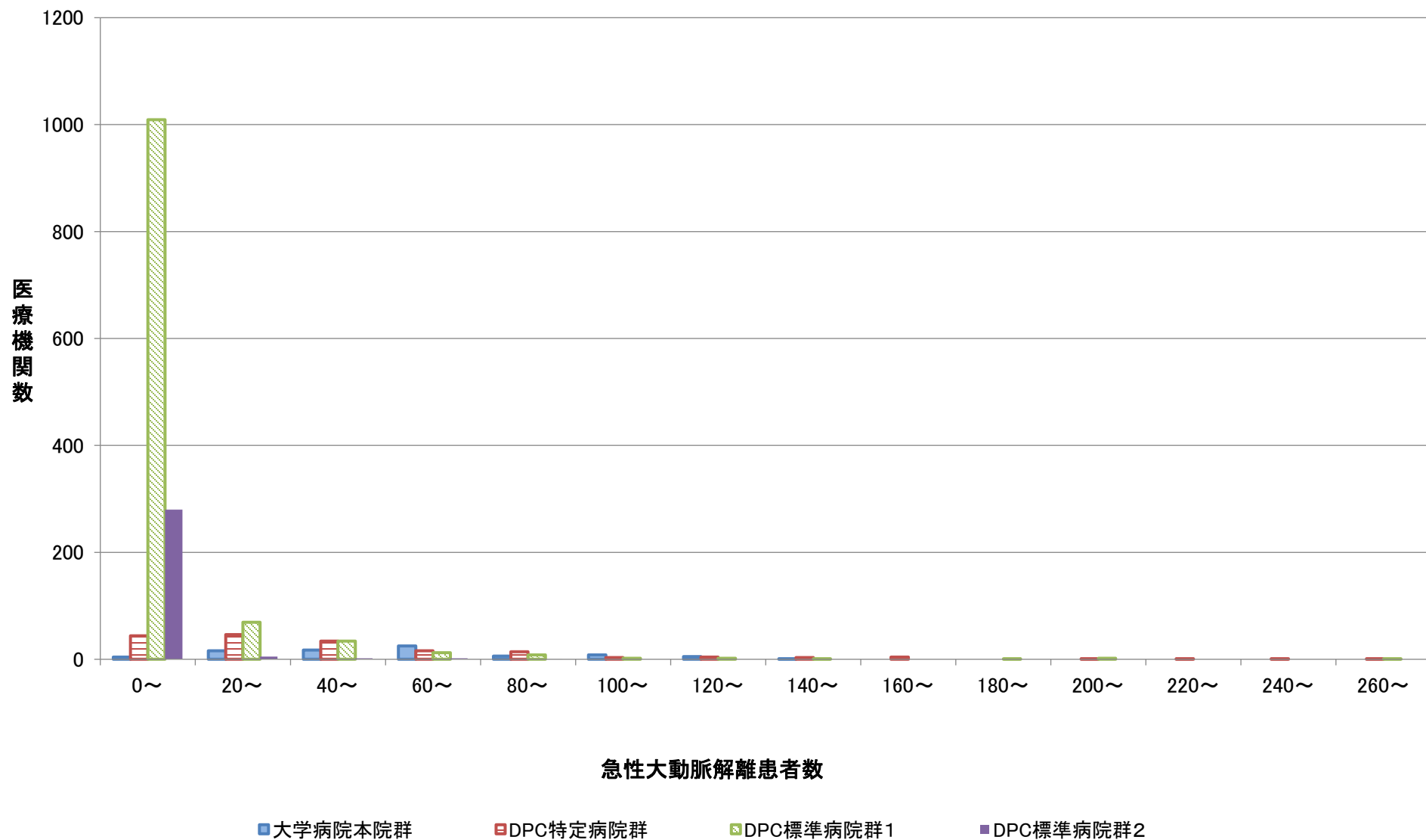


# 急性心筋梗塞



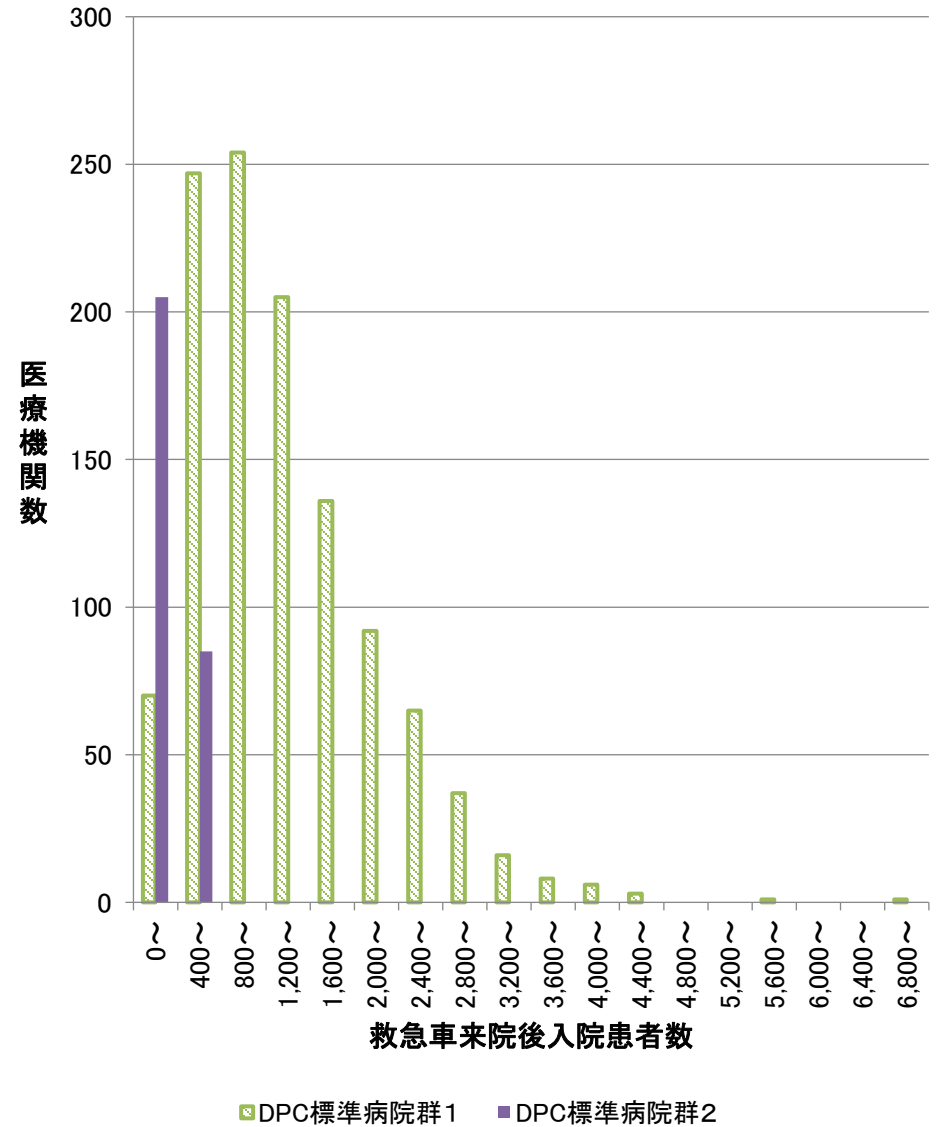
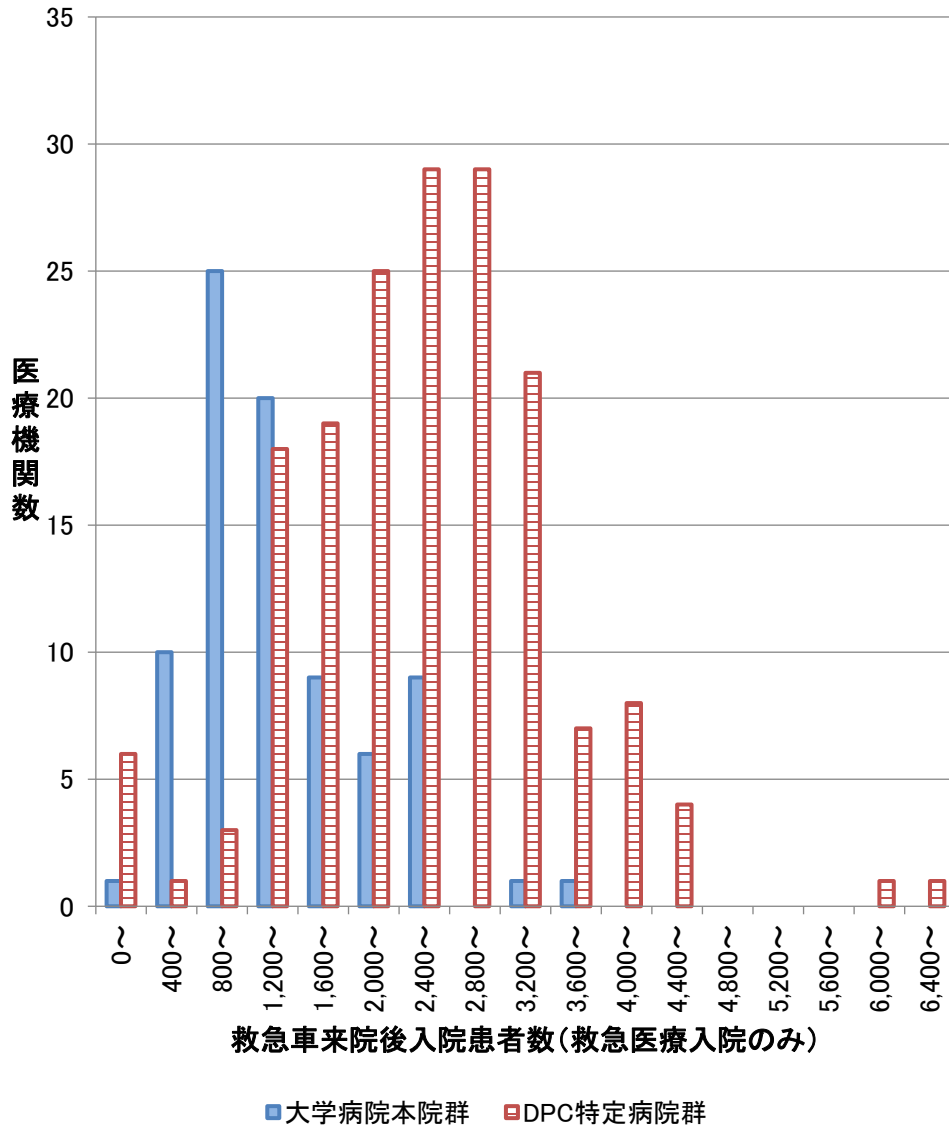
※10刻みで「50～」は「50以上60未満の区分」を表す

# 急性大動脈解離



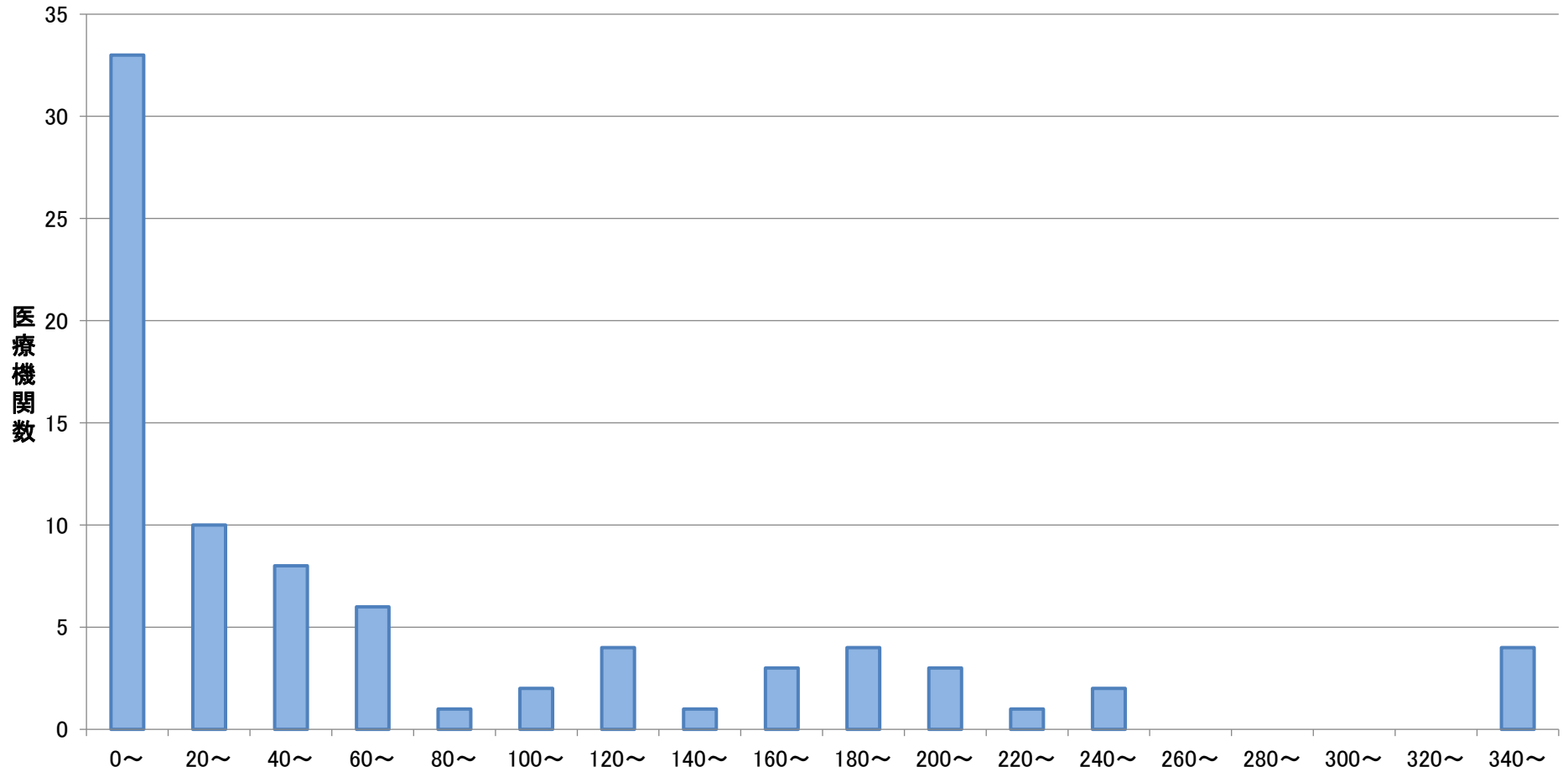
※20刻みで「60～」は「60以上80未満の区分」を表す

## 地域医療体制評価・救急医療(救急車来院後入院患者数)



※400刻みで「400～」は「400以上800未満の区分」を表す

## 医師少数地域への医師派遣機能

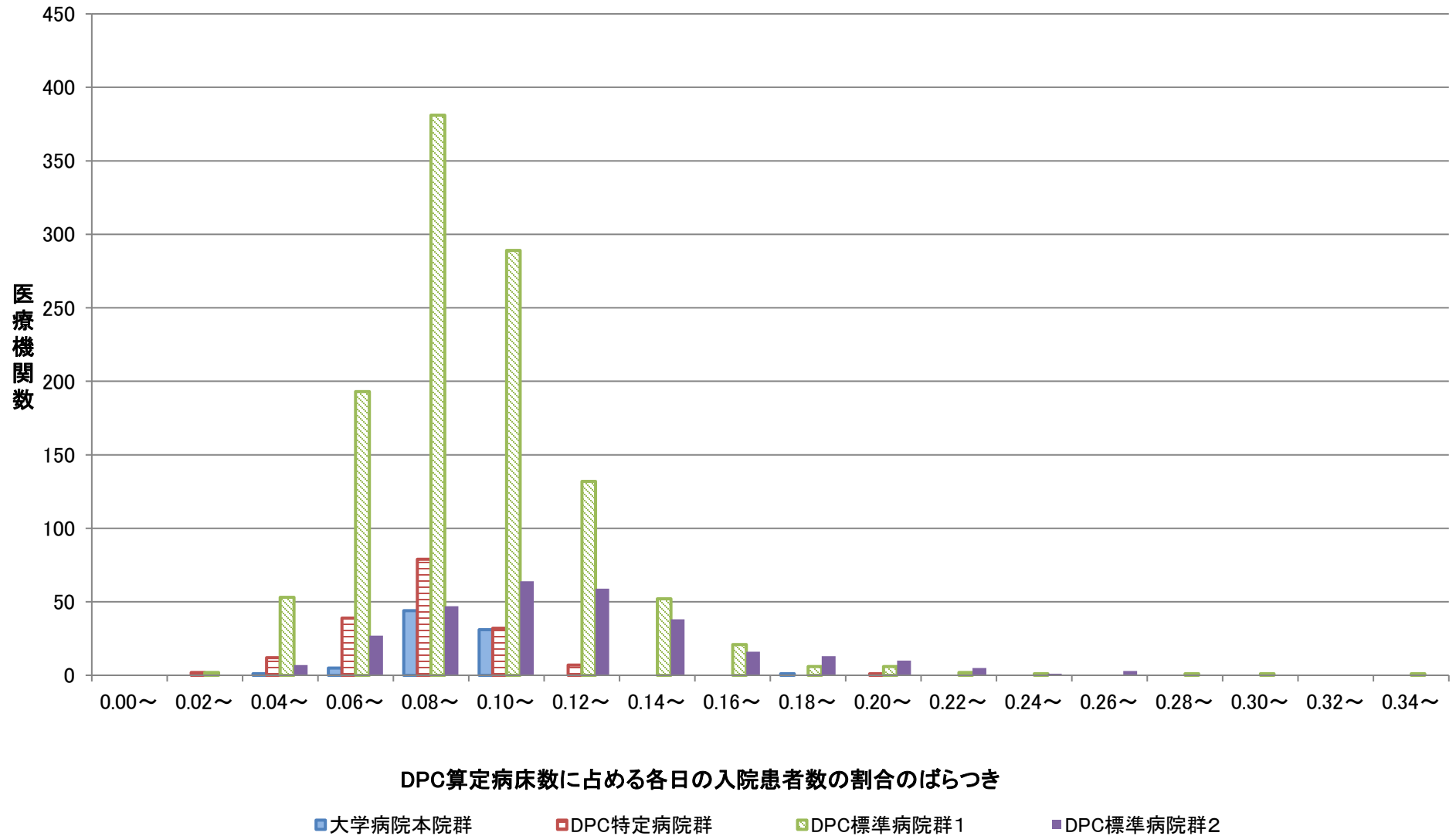


「医師少数区域」へ常勤医師として半年以上派遣している医師数

■ 大学病院本院群

※20刻みで「60～」は「60以上80未満の区分」を表す

## 地域の需要変動への応答性



※0.02刻みで「0.08～」は「0.08以上0.10未満の区分」を表す